

派遣専門家オリエンテーション資料

リベリア

REPUBLIC OF LIBERIA

任国情報

1989年

国際協力事業団
国際協力総合研修所



は し が き

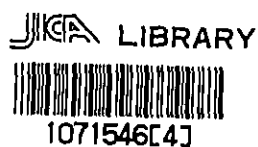
この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものである。

本情報の整備にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とそのご家族の多大なご協力を得た。また、外務省、在外公館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただいた。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく、各国にご滞在の皆様より最新かつ具体的で正確な情報をお寄せ下さるようお願いする。

本情報が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

18532

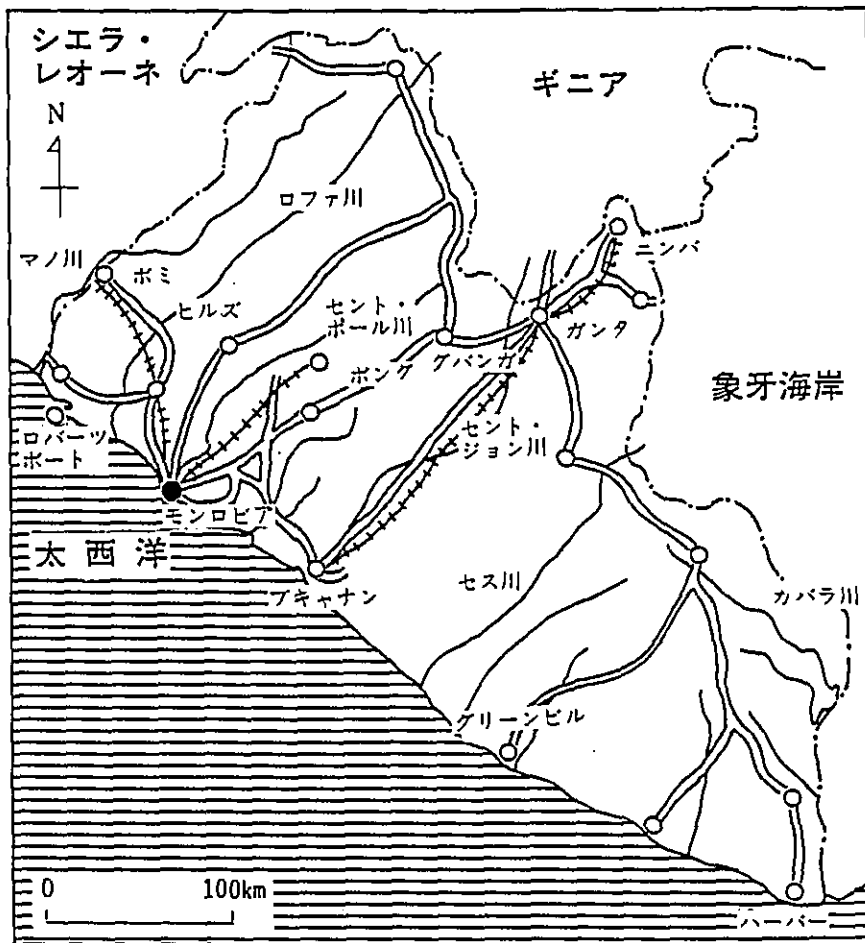


平成元年1月

国際協力事業団

国際協力総合研修所所長

リベリア共和国



目 次

	頁
I 一般事情	
1. 主要指標	1
2. 略 史	5
3. 政治, 外交	7
4. 経済事情	8
5. 我が国との関係	28
II 生活事情	
1. 食生活	33
2. 衣 料	36
3. 住 宅	38
4. 医 療	40
5. 教 育	43
6. 家庭の使用人	44
7. 交通事情	46
8. 通 信	48
9. マスコミ	49
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ	50
11. その他のサービス	54
12. 観 光	55
13. 治安, 緊急時の心得	57
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	58
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	62
16. 社 交	64
17. 任国公官庁	65
18. 在外日本関係機関等	66
19. 地方都市	67

I 一般事情

1. 主要指標

- 1-1 国名 リベリア共和国
Republic of Liberia
- 1-2 独立 1847年7月26日
- 1-3 首都 モンロビア Monrovia
人口30.6万人 (1986年)
- 1-4 面積 11万1370平方キロメートル
(日本の約3分の1倍)
- 1-5 気候

リベリア共和国の首都モンロビア市近郊の気候は年により多少の差異はあるが、乾季(11~4月)と雨季(5~10月)に分かれる。乾季といえども地理的な関係もあって、日照りが続き酷暑の上、湿度も非常に高い。雨季も気温がやや下がるものの湿度は高く、カビ等が発生しやすい。雨季にあつては8~9月にかけて降雨量が比較的少なくなり、また乾季にあつては12~1月にはサハラ砂漠からのハーマタンと呼ばれる乾燥した熱風が吹きはじめ、日中の気温を30度以上に高めるが、朝夕は涼しく感じることもある。

降雨量は海岸地帯が最も多く、モンロビア市では平均年間降雨量が4,000~5,000mmに達するが、内陸に進むにつれて減少する。

年間平均気温は海岸地帯と内陸部では異なるが、大体21~32℃の範囲で、年間を通じて差は少なく、12月~2月にかけて比較的暑い期間で30℃以上になる日が多く、最高で40℃を超えることがある。湿度も、海岸地帯と内陸部では異なり65~95%の範囲で、全国平均では約80%以上と高く、ほぼ1年を通じて高温多湿のいわゆる熱帯性気候である。

表 フリータウンにおける平均気温

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温	26.7	27.2	27.5	27.8	27.2	26.1	25.3	25.0	25.6	25.9	26.4	26.7
降水量	10	5	30	79	241	363	742	927	566	361	140	30
平均湿度	77	74	75	76	81	85	88	89	88	86	84	80

主要指標

1-6 人 口

総人口は約222万人(1986年末)、モンロビア市の人口は約30万人程度である。男女別では女子がやや男子を上回っている。

在留外国人の数は、特に西アフリカに多いレバノン人、シリア人を筆頭に、アメリカ人、ドイツ人、スウェーデン人、イギリス人、フランス人、イタリア人、そしてインド人、フィリピン人、韓国人、中国人といった東洋人と、これ以外に近隣のシエラ・レオーネ、ギニア、ガーナ、象牙海岸等の国からの多数の出稼ぎ労働者が在住している。

1-7 人種構成

人種は、アメリカ合衆国より解放奴隷として渡って来た黒人の子孫、すなわちアメリコ・ライベリアン(国民総人口の約3%)と原住民とに大別され、政財界の要職は、いずれもアメリコ・ライベリアンで占められている。原住民は約16の主要部族からなっている。

1-8 言 語

公用語は英語である。一般現地人の話す英語は発音、アクセント、イントネーションが独特で、ブッシュ英語と呼ばれ、欧米の英語になじんだものには極めて聞きとりにくい。現地人で一般家庭にハウスボーイとして雇われるものの大部分は、いわゆる、文盲の人であり、仕事をするのに苦労することが多い。

公用語が英語なので、現地語の習得の必要性はない。参考のために述べると、現地語は原住民の各部族の言葉であり、Vai族の言葉はMandingo族の言葉から派生したもので、またGola族とBassa族の言葉、あるいはKru族とGrego族の言葉のように相互に理解可能な言葉もあり、これらは同一の祖先をもっていたとも考えられる。

1-9 宗 教

信教の自由は完全に保証されており、公式にはキリスト教国である。しかし国民の大半が今なお各部族に伝わる伝統的原始宗教を信仰しており、次いで建国の由来がしめすようにキリスト教徒が多く、回教徒がこれに次いでいる。

主要指標

1-10 政 治

- (1) 政 体 共和制
 (2) 元 首 サミュエル・カニオン・ドエ大統領
 (3) 議 会 二院制
 (4) 主要政党 人民進歩党

1-11 経 済

- (1) 国民総生産 10億3000万ドル
 1人当りの国民所得 450US\$(1986年, 世銀)
 (2) 主要産業 鉄鉱石, 天然ゴム, 木材, ダイヤモンド, コーヒー,
 ココアなどの一次産品。

表 主要産品

	1978	1979	1980	1981
鉄鉱石(百万MT)	N.A.	20.9	18.0	20.6
ゴム(百万ポンド)	207.3	---	212.7	180.3
米(千MT)	145.3	137.8	161.1	169.2
丸太(千m ³)	N.A.	N.A.	745	451
コーヒー(LT)	N.A.	N.A.	10,662	7,180
ココア(LT)	N.A.	N.A.	4,589	5,650
パーム核(LT)	N.A.	N.A.	3,406	4,020

(出所: アピックカントリー情報)

- (3) 貿 易 輸出 4億3600万ドル(1985年, IMF)
 輸入 2億8400万ドル(1985年, IMF)
 (4) 財 政 歳入 2億3400万ドル(1986年/87年度予算)
 歳出 3億6600万ドル(1986年/87年度予算)

主要指標

表 財政収支 (百万ドル)

		1978/79	1979/80	1980/81	1981/82
歳入		201.9	202.8	217.9	230.2
贈与		23.0	23.0	24.5	36.0
歳出		365.7	313.7	352.9	351.4
経常支出		152.9	179.7	237.1	265.4
開発支出		212.8	134.0	115.8	86.0
財政収支		△140.8	△87.9	△110.5	△85.2
調 達	国内	6.4	22.4	N.A.	N.A.
	海外	134.4	65.5	N.A.	N.A.

(出所:アビックカントリー情報)

(5) 通貨

通貨単位 : Liberian Dollar(S)=100Cent(S)

略号 : L\$

為替相場 : 1US\$=1L\$

(東京銀行月報1988年12月号)

米ドルと等価のリベリア通貨(コイン)のほか、米ドルがそのまま流通している。

(6) 外貨準備高

外貨準備高は300万米ドル(1984年)で対外公的債務残高は8億7900万米ドル(1985年, IMF, 対GNP比: 85.3%)である。

1-12 日本との時差

時差は-9時間で、日本の正午はリベリアでは同日の午前3時である。

2. 略 史

アフリカ西海岸に関する初期の知識は、紀元前600年にエジプトのファラオのネコ二世がフェニキアの船隊に行かせたアフリカ沿岸の周航や、カルタゴの航海者ハンノが紀元前500年頃に西海岸に沿ってカメルーン山沖まで行った航海によってもたらされた。1364年から1413年にかけてフランスのディエブの商人たちが、現在のブカナンにグラン・ディエブ、グリーンビルにプチ・ディエブという交易所をそれぞれつくった。

次いで1461年にはペドロ・ダ・シントラというポルトガルの船乗りがリベリア海岸に到達し、マウント岬、メスラド岬、バルマス岬などという地名をつけた。この地域は、その主要交易品が「楽園の穀物」と呼ばれ、その当時は金と同じほどの価値をもったマラゲータ・コショウであったことから、穀物海岸という名で知られるようになった。

1663年になるとイギリスのロイヤル冒険者会社がここに進出し、メスラド岬とグランド・セスターズ(現在のグランドセス)に交易所を設けたが、翌64年にオランダ人に破壊されてしまった。

穀物海岸に対する関心が再び高まったのは、19世紀になってからである。ちょうど奴隷制度廃止の機運が高揚していた時期であったので、ここは解放奴隷にとっての好適な土地として提案された。1916年にアメリカ合衆国の官吏2人と、アメリカ植民協会(1816年設立)の役員2人が穀物海岸を訪れた。ここに植民地を設けようという最初の計画は失敗したが、1821年には同協会の役員たちと現地のアフリカ人族長の間で協定が成立し、同協会によるメスラド岬の所有が認められた。そして翌22年に、最初のアメリカ合衆国の解放奴隷がメスラド川河口のプロビデンス島に到着した。

これに続いて白人のアメリカ人ジェヒュダイ・アッシュマンが到着し、実質的にリベリアの建設者となった。彼は1824年に一時ラルフ・ランドルフ・ガーリーの補佐を受けたが、このガーリーがここをリベリアと呼び、メスラド岬に建設中の町を当時のアメリカ合衆国大統領モンローにちなんでモンロビアと呼ぶことを提案した。

アッシュマンは1828年にリベリアを去ったが、そのときすでにここには政府と植民者のための簡単な法が設けられており、貿易も始まっていた。グランド・バサ(現在のブカナン)からセントジョン川に沿って内陸へ、また沿岸のシノ、メリーランドなどの地域にも植民地が設立された。1836年に

略 史

は、アメリカ合衆国15代大統領ジェームズ・ブキャナンのいとこのトーマス・ブキャナンが総督として赴任した。彼が41年に死ぬと、1809年にアメリカ合衆国バージニア州で自由民として生まれた黒白混血のジョゼフ・ジェンキンス・ロバーツが後任の総督となり、領域の拡大と、経済条件の改善を行った。

3. 政治,外交

3-1 最近の政情

1980年4月12日にクーデターにより政権を握ったドゥ軍曹長は、憲法の施行を停止し、国家権力を掌握するリベリア軍人民救済評議会(PRC)を設け、自ら議長となり軍事政権を発足させた。

クーデター直後国内情勢は混乱の様相を呈したが、新政権は言論の自由の制限、ストライキの禁止、夜間の外出禁止などの処置を継続して政局の安定に努めた。

その後政情が落ち着きを見せはじめると、ドゥ政権は徐々に緩和政策を実施し、1984年7月21日にはPRCを解散、PRCの27人とシビリアン35人からなる暫定国会を設立し、民政移管の準備がなされた。また1984年7月26日には1980年のクーデター後禁止されていた政党の復活が認められた。

1984年に新憲法発布をし、1985年10月15日に大統領選挙を行った結果、1986年1月2日にドゥ大統領は第2共和国の初代大統領に就任し、民政移管がなされた。

しかしながら、この間、1980年4月の軍事政権樹立から1985年11月12日までに7回のクーデター未遂事件があったという記録がしめすように、ドゥ大統領の「国民和解」と「団結」の努力にもかかわらず、政局は依然不安定要素を抱えているといえる。

3-2 外 交

外交面ではリベリアは非同盟主義を基本方針とする一方、近隣アフリカ諸国との協調、並びにアメリカをはじめとする西側諸国との関係強化に努めている。しかし、ソ連、エチオピア等社会主義諸国とも外交関係を維持し、柔軟性のある外交政策を採っている。

旧政府関係者への厳しい処置から、新政権発足直後のリベリアと、アフリカ・西欧諸国との外交関係は一時悪化した。クーデター直後の1980年4月、ラゴスで開催されたOAU特別首脳会議へのリベリア政府代表団の参加は認められず、続く5月の西アフリカ諸国共同体(ECOWAS)首脳会議もドゥ元首の出席を拒否している。しかしドゥ元首は各国を積極的に訪問して外交関係の改善に努め、これによりリベリアと各国との外交関係は好転していった。

特にアメリカ合衆国との友好関係はクーデター以前にも増して緊密化しており、アメリカ合衆国からのリベリアに対する経済援助、軍事的支援は一層強化されている。

4. 経済事情

4-1 概 観

(1) 経済構造

リベリア経済は、歴史的背景からいわゆる近代的部門と伝統的部門の二重構造を呈している。

近代的部門とは、リベリアの主要一次産品であるゴム、鉄鉱石、木材の開発に携わる外国系大企業支配下の産業部門のことである。遑国以来、積極的な外資導入による経済解放政策を採ってきた同国は、天然ゴムのプランテーション栽培にアメリカ合衆国のファイヤーストーン社が進出し大規模な開発が着手されている。これ以降、鉄鉱石開発には、アメリカ合衆国・西ドイツ・スウェーデン等の企業が採掘権を取得、木材開発は周辺国の森林の涸渇化から、リベリアの森林資源が注目され、多数の外国企業が進出した。こうした外国企業によるイニシアティブから近代的産業部門が“飛び地”的経済圏を形成し発展してきた。その結果、近代的部門は都市周辺、国内に散在するプランテーションおよび鉱山地区に集中してほとんどが輸出指向型産業で占められ、リベリアのGDPの80%を産出している。

一方、伝統的農業部門は、人口の約7割を占める農業人口に支えられ、伝統的な自給自足経済から成り立っている。生産性の低い米作中心の小規模農業であることから所得水準はきわめて低く、近代的部門との所得格差は大きい。

製造業は、これまでゴム・鉄鉱石・木材(丸太)等の一次産品輸出に代表されるように加工産業が未発達な状態であり、国内市場の狭隘性、輸入消費財との競合から有力な産業基盤を形成するまでに至っていない。

次表は1980~1984年のリベリアの国内総生産(GDP)をしめしたものである。

その他、道路等のインフラストラクチャー、学校・医療施設、公共施設等の社会インフラがほとんど都市部、特にモンロビアに集中しており、地方からの首都モンロビアへの人口流入による住宅難、生活環境の悪化、失業の増大等が大きな社会問題化している。

このように、リベリア経済は、伝統的部門と近代的部門の二重構造から大きな所得格差が存在し、両者間の有機的連関に乏しく、そのため今後のリベリアの経済開発を進めていく上で、この二重構造の解消が重要な課題となっている。

なお、リベリアの法定通貨は米ドル貨幣を使用しており、リベリアドルと米ドルは等価である。

表 国内総生産

(単位:百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984
Agriculture	63.0	49.4	56.0	56.6	61.4
Rubber	21.0	21.3	22.6	25.2	30.1
Forestry	23.0	12.3	10.6	9.4	10.6
Other	19.0	15.8	22.8	22.0	20.7
Mining & Quarrying	111.0	97.7	99.0	85.8	79.7
Iron Ore	106.0	92.0	91.8	80.3	75.7
Other	5.0	5.7	7.2	5.5	4.0
Manufacturing	26.0	23.6	21.2	21.6	20.5
Construction	15.0	14.0	13.0	12.8	12.4
Government Service	39.6	50.4	47.8	47.8	47.0
Other Services	111.6	107.1	100.8	101.2	99.4
(Traditional Sector) *2	(80.0)	(82.4)	(84.9)	(87.7)	(N.A.)
GDP at 1971 Factor Cost *3	366.2	342.2	337.8	325.8	320.4
GDP at Current Market Cost *3	800.8	753.9	756.0	714.6	716.0

1. Preliminary

2. World Bank estimates

3. Traditional Sector is not included

出所 : Economic Survey, Ministry of Planning & Economic Affairs(MPEA) 1985.
Issues and Options in the Energy Sector. IBRD 1984.

経済事情

(2) 最近の経済成長

順調な成長をみせたりベリア経済も1970年代を通じ、鈍化の傾向をしめし、1980年代に入ると経済成長は急速に停滞している。

最近のりベリア経済の不振は、先進工業国の景気後退・一次産品価格の低迷等の外部的要因が大きく影響しているといえる。特に中心的輸出産業である鉄鉱石・天然ゴム・木材産業が先進国の需要の冷え込みから軒並み価格が下落し、GDPは過去5年間実質マイナス成長に陥っている(下表参照)。

表 名目および実質GDPの傾向

(単位:百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984
GDP at Constant Factor Cost (1971)	366.2	342.2	337.8	325.8	320.4
Annual Growth (%)	-4.7	-6.6	-1.3	-3.6	-1.7
GDP at Current Market Cost	800.8	753.9	756.0	714.6	716.0
Annual Growth (%)	4.5	-5.9	0.3	-5.5	0.2

(出所: Economic Survey, MPEA 1985)

こうした対外的要因とともに、他方りベリア経済の抱える構造的要因も看過できない。構造的問題としては①主要産業が一次産品の輸出セクターという国際的市況に影響を受けやすい海外依存体質であること②法定通貨が米ドルであり、外貨規制がなく、りベリアの国内経済が外国企業の投資動向による資本移動に著しく依存していること③近代的部門に対し、伝統的部門の農業開発が小規模・低生産性という未発達の状態に取り残されていること④国内経済の牽引車であるべき工業セクターが十分育成されておらず、生産財をはじめ原材料、部品、消費財を輸入に頼らざるを得ない状態であること等が指摘されている。

これまでの経済発展の原動力となった鉄鉱石、天然ゴム、木材等の輸出産業に今後多くを期待できない現在、上記のような構造的問題を解決するためには、生産構造の多様化を図るとともに伝統的産業部門の抜本的開発の長期戦略が必要となっているといえる。

4-2 産 業

(1) 農 業

リベリアの農業は、輸出作物を中心に換金作物を生産する商業農業部門と、自給自足農民を中心とした伝統的農業部門に分けられる。

リベリアの労働就業人口の約7割が伝統的農業生産に従事している。主要生産物は米、キャッサバ、野菜等である。国土の約40%は耕作可能である。しかし森林を切り開いて行う焼畑農業を営んでおり、農地は数年耕作された後、休閑地とされる。そのために1度に農地として利用されているのは、その一部に過ぎない。一般に農地は部族ごとの共同所有の形がとられるが、農家一世帯当りの耕地面積は2エーカー足らずと小さい。

生産性の低さが伝統的農業部門の最大の問題点となっている。従事する労働者数にもかかわらず、国内生産に占めるウエイトは約2割にすぎない。これは、①貧弱な土壌 ②熱帯性の降雨パターン ③急勾配を有する農地が多い ④農業生産改善のための知識・技術の不足等が原因として指摘されている。またフィーダー道路網が発達しておらず、市場へのアクセスも不十分である点も生産拡大の障害となっている。

伝統部門の生産動向はデータの制約から把握が難しい。伝統部門の国内生産は、毎年農業省によって実施される米生産動向に基づいて推計される。しかし、この調査は1978年以降実施されておらず、最近の同部門の生産動向は公表されていない。1979~80年の2年間、伝統部門による生産は停滞しており、ほぼ横ばいの水準で推移し、さらに1981年には減少したものと推定されている。1975~80年の5年間に伝統部門の国内生産額は年平均3.4%で増加したに留まり、これはほぼ人口の増加率と見合った程度のものである。

米はリベリアの主食であり、最も重要な食糧作物である。伝統的農業農家の90%は米作に従事している。また米作の95%は陸稲の栽培によるものである。しかし米の生産高は国内の需要には及ばず、年々米の輸入量は増加している。米の増産を阻害している要因としては、上記の生産性の低さのほかに、米の生産者価格が低く据え置かれたままであった点もあげられている。政府は米の国内自給を達成するために一連の農業振興策を実施している。農業総合開発プロジェクトがロファ郡、ニンバ郡等で行われており、農業生産の拡張と改善が図られている。また改良種子の使用、肥料の投入により陸稲の生産性を向上させる計画、沼地でも栽培可能な品種の導入等も考えられている。

換金作物生産の中心となっているのは、天然ゴム、コーヒー、ココア、油ヤシである。

天然ゴムの生産量は1977年以降のび悩んでいる。1981年の生産量は1億8030万ポンドであり、前年対比15.2%の減少であった。このうち1億3160万ポンドが外国系企業による生産であり、4870万ポンドがリベリア人農園による生産であった。国内生産額(1971年価格)ベースでも、天然ゴム生産は停滞している。1977年~79年にかけては年平均5.9%のペースで減少を続け、1980年には前年比4%の増加を見せたものの、81年は前年比1.4%増で、80年並みに留まっている。外国系ゴム会社の天然ゴム買い上げ価格の影響を受けて、リベリア人農園による天然ゴム生産は減少する傾向にあり、リベリアのゴム生産全体に占める割合も低下している。これは国際需要動向、生産性の低下と並んで天然ゴム生産停滞の要因となっている。

コーヒー、ココア、油ヤシは主に小作農家によって生産されているが、これらの農産物の生産高に関しては正確な資料がない。農家からの買付けと輸出は、リベリア産品販売会社(LPMC)によって独占的に行われている。コーヒーの買付け量はここ数年停滞している。ココアは逆に増加する傾向にある。油ヤシの買収価格はコーヒー、ココアに比べ不利であるために、減少する傾向を見せている。コーヒーの買付け量は1980年に1万600ロング・トンであったのに対して、1981年は7200ロング・トンに減少している。一方、ココアは4600千ロング・トンから5700ロング・トンに増加した。パーム核は3400ロング・トンから4000ロング・トンに増加している。コーヒー生産の減少は、国際価格の低落により国内買い取り価格も15.6%引き下げられたこと、1980年のクーデター以降幾つかのコーヒー農園が閉鎖されたこと等が影響している。

(2) 鉱業

リベリアの鉱業部門は貨幣経済部門GDPの18.4%、輸出総額の70%近くを占めるリベリアの基幹産業である。なかでも鉄鉱石は生産額では鉱業部門全体の約90%を占め、重要な役割を果たしている。鉱業部門の生産額は鉄鉱石生産の不振から1975年以降、実質ベースで減少を続けていたが、1979~80年にはやや回復の兆しをみせた。しかし、1981年は再び6%の減少となっている。

1981年の鉄鉱石生産量は、80年の1800万トンから2060万トンへと前年対比14%増加している。しかし、79年の2090万トンにはおよばなかった。鉄鉱石のほかでは金、グイヤモンドが主要鉱物である。これらの生産動向に関しては輸出量によって判断せざるをえないが、金は1979年の2kgから80年には259kg、81年には597kgへと増加しており、またグイヤモンドも80年には79年の60.4kgから59.6kgへ減少したものの、81年には67.2kgへと再び増加しており、81年の生産も好調を維持し

た模様である。

エネルギー集約型産業であるリベリアの鉄鉱石産業にとって、70年代の石油価格急騰の影響は深刻であった。生産コストは急上昇し、鉱山会社の採算を悪化させた。一方、鉄鉱石需要は国際的な不況のために低迷している。現在、リベリアの鉱山会社は年間23万トンの鉄鉱石の生産能力を有している。しかし、1975年～80年にかけての鉄鉱石生産は、75年のピーク時に比べて平均して23%低水準の生産量で推移した。かかる情勢の下、各鉱山会社の財務状態は軒並み悪化の一途をたどっている。特に1978、79年には各々3400万ドル、5400万ドルの損失を計上している。なかでもエネルギー価格の上昇は含有率の低いボング鉱山で操業するボング鉱業会社の経営を苦しいものになっている。

4-3 財 政

(1) 財政収支

前述の通り、リベリアの財政状態は近年一層悪化の傾向にあり、深刻の度を深めつつある。リベリア政府の財政収入を表にしめすが、その基本的財源は租税収入である。租税収入のうちでは所得税と関税が中心となり、両者で全体の70%を占めている。所得税は、個人所得税が大幅にウェイトを増し、法人税は最近の経済不振を反映し極端な減少をしめしている。特に1980年に歳入総額の100%を占めていた法人税収入は1985年には、5%前後まで落ち込み、一方所得税はこの間から20%以上の比率を伸ばしている。1981年政府は財政の逼迫化から新しい財源として国家復興税(National Reconstruction Tax)を創設し歳入の多角化を図った結果、本税は今や法人税と同規模にまで増加している。関税は、輸入関税、輸入手数料収入が主要な財源となり、これも近年減少が著しく、1981年に8,030万ドルであったものが1985年には5,750万ドルまで下がっている。その他では海運収入が前述したように漸減の状況にある。

こうした財政事情からリベリア政府はアメリカ合衆国を中心に外国援助に財源を求めることとなった。しかしながら、外国援助の中でも同国の債務返済状況を配慮し借款は著しく減少し、その結果無償援助に活路を求めている状態である。

表 財政収入

(単位：百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
Domestic Revenue	211.7	202.9	216.8	210.3	183.0	192.0
Taxes on income & Profits	72.4	75.3	84.9	94.0	73.0	90.2
Taxes on Property	3.1	4.0	4.0	5.7	5.3	3.9
Taxes on Domestic Transactions	28.7	19.3	26.8	31.5	32.4	28.6
Taxes on Foreign Trade	69.1	80.3	67.3	60.3	56.9	57.5
Non-Tax Revenue	23.5	11.1	13.7	9.5	6.3	5.8
Other Taxes	14.9	12.9	20.1	9.3	8.2	6.0
Maritime Revenue	10.7	20.1	20.5	21.2	18.3	18.0
Total Revenue	222.4	223.0	237.0	230.0	201.3	210.0
Foreign Loan	112.6	49.4	37.0	26.5	45.1	57.0
Grants	25.0	67.0	71.1	80.9	36.0	23.0
Total Government Revenue	360.0	339.4	345.4	337.4	282.4	290.0

(出所：Economic Survey 1985 & Statical Bullet for Liberia 1986, MPEA)

一方、財政支出を次表にしめすが、財政支出と開発支出に分れている。経常支出の内訳は圧倒的に賃金、給与支払いであり、1984年に経常支出全体の実に63%に達している。このため政府は公務員給与の削減と支払猶予を実行しており、今年度については3~4ヶ月の給与遅配が続いている。

また対外債務に対する利子支払いも大きな財政負担になっている。1984年には2,270万ドルを占め、経常支出総額の11.6%に達している。開発支出は外国援助を源資としていることから著しい減少をしめし、1980年の5,780万ドルから1984年には3,900万ドルに削減されている。開発支出の中では教育と保健・医療分野への支出が大きなシェアを占めている。

表 財政支出

(単位:百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984
Recurrent Budget	197.0	241.0	257.5	214.9	196.5
Wages & Salaries	116.8	152.7	154.3	126.8	121.1
Goods & Services	33.9	42.3	53.8	29.3	28.2
Capital Formation	3.2	3.0	6.9	2.6	3.2
Interest(External Debt)	23.9	20.2	18.1	30.4	22.7
Transfer	15.7	19.5	20.1	25.8	21.3
Unallocable	3.5	3.3	4.3	-	-
Development Budget	57.8	57.1	54.7	55.1	39.0
Debt Amortization (Principal,Internal Debt)	24.7	4.9	5.6	6.0	6.1
Total Government Expenditure	279.5	303.0	317.8	276.0	241.6

(出所: Economic Survey 1985 & Statical Bullet for Liberia 1986, MPEA)

その結果,リベリアにおける国家財政収支は,外国援助なしには成立できない状況にあり,歳入の落ち込みに対応し,歳出の切り詰めに努力しているものの,外国援助をのぞくと財政収支は赤字が恒常的に続いている。

表 財政収支

(単位：百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984
国家歳入(除外国援助)	360.0 (222.4)	339.4 (223.0)	345.4 (237.0)	337.4 (230.0)	282.4 (201.3)
国家歳出	279.5	303.0	317.8	276.0	241.6
国家財政収支(除外国援助)	80.5 (-57.1)	36.4 (-80.0)	27.6 (-80.8)	61.4 (-46.0)	40.8 (-40.3)

(出所：Economic Survey 1985 & Statical Bullet for Liberia 1986, MPEA)

(2) 対外債務

財政赤字の拡大は、リベリア政府の海外からの借入を一層増大させることとなった。1970年代後半まで均衡財政を続けていた政府はアフリカ統一機構(OAU)のリベリアでの開催を機に大型の公共事業を実施し、対外債務を一挙に増大させる結果となった。1975年の1億7,600万ドルの借入れ残高は、1980年に5億3,300万ドル(世銀統計上は7億100万ドル)にふくらんだ。その後、1980年代に入り財政収入の悪化に伴い、対外援助への依存度が高まり、財政赤字の不足分をますます海外からの借入れに頼る傾向となった。その結果、1985年末の対外債務は13億ドル(世銀統計は11億5,500万ドル)に達し、世銀情報によると現在は16億ドルにおよんでいるといわれる。

この間、リベリア政府は海外の債権者に債務返済の繰り延べを要請、改善に努力してきたが、財政の再建は困難な状況にある。昨年1月アメリカ合衆国のシュルツ國務長官が訪りの際、食糧援助をのぞきアメリカ合衆国は経済援助を打ち切ると発言、大きな衝撃となったが、その後アメリカ合衆国は経済ミッションを派遣し援助は継続することが確認された。そのかわりアメリカ合衆国は17名からなる財政専門家を1987年夏までに派遣することを約束し、政府の財政の抜本的な再建に向け協力することとなった。

(単位：百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
Loan	112.6	49.4	37.0	26.5	45.1	57.0
Grant	25.0	67.0	71.1	80.9	36.0	23.0
Total External Debt Outstanding	701.0	815.1	869.3	969.8	1,033.4	1,155.0

(出所：MPEA 1986 and IBRD World Debt Tables, 1987)

表 Budgetary Expenditure for Debt Services.

(単位：百万ドル)

	1980	1981	1982	1983	1984
Principal	23.9	4.4	5.5	5.6	5.8
Interest(External Debt)	23.9	20.2	18.1	30.4	22.7
Internal Debt	0.8	0.5	0.1	0.4	0.3
Total	48.6	25.1	23.7	36.4	28.8

リベリアに対する外国援助の状況は次の通りである。借款ベースでは表のように世銀, IMFによる供与が圧倒的である。次いでアメリカが高く, 西ドイツがそれに続いている。また, アフリカにおける国際機関のアフリカ開発銀行も高く, 1984年には第2位にランクされている。無償援助(グラント)ベースでは表・無償協力援助の状況のようにアメリカがトップであり, 年度によって日本・西ドイツ・ヨーロッパ共同体(EC)が上位を占めている。

経済事情

表 外国借款の供与状況

(単位：百万ドル)

	1982	1983	1984
世銀, IMF	60.4	61.4	54.1
アメリカ	17.9	16.8	16.6
アフリカ開発銀行	-	18.6	42.8
西ドイツ	12.2	11.5	7.5
中国	2.1	N.A.	15.0

表 無償協力援助の状況

(単位：百万ドル)

	1982	1983	1984
アメリカ	48.1	59.8	61.1
国連	5.8	6.0	3.2
E C	3.9	1.7	2.5
西ドイツ	1.5	6.0	4.8
日本	8.3	5.9	2.7

(3) 経済開発計画

リベリアにおいて本格的な開発計画が策定されたのは1976年からの第一次国家社会経済開発5カ年計画(1976~1980年)にさかのぼる。その後、第二次開発計画が第一次計画に継続して1980年からスタートする予定であったところ、クーデターによる政権の交代もあって、実施は1年間延長され、第二次開発計画は1981年から1985年の5カ年間を対象として実施された。

リベリア政府は第二次5カ年計画の終了に伴い、第三次開発計画に着手する意向であったが、経済環境の大幅な変動により開発計画の策定作業は中断され、かわりに暫定的な開発計画として「経済復興計画(Economic Recovery Program・1986/87~1988/89)」が1986年9月に発表された。公表されている「経済復興計画」によると、当面の緊急課題として提起されている開発目標は次の通りである。

- 輸出産業の活性化
- 政府財政赤字および累積債務の軽減
- 投資環境の改善

① 輸出産業の活性化

近年の鉄鉱石、天然ゴム、木材、その他農産品価格の低迷による輸出産業の急速な悪化に対抗し、特に期待できそうな一次産品である天然ゴム、コーヒー、ココア、ダイヤモンドの輸出に重点を置き、輸出産業の活性化を図ることを目指している。

② 政府財政赤字および累積債務の軽減

過去5年間政府の財政収入は、輸出産業の不振から減少の一途をたどり、一方財政支出は、公務員の給与支払等急増しており、収支の赤字は一層拡大する状況にある。この収支のギャップを埋める方策として、外国援助の積極的導入を行った結果、債務累積が進行し、政府財政収支は悪循環に陥っている。そのため本「復興計画」では、徹底的な緊縮財政を敷き、支出項目の厳正な監視、公務員の削減、税収入の増大のための徴税機構の強化および優遇税制の見直し、さらに、公共企業体の民営化と援助行政の再検討を謳っている。

③ 投資環境の改善

外国投資の現状は、国内経済の悪化に伴い近年激減しており、政府は投資環境の改善を図るべく、投資誘致のための優遇施策を強化している。そのための手段として「リベリア自由貿易地区(LIFZA)」の拡充、投資誘致促進活動の強化、優遇税制・国内融資制度の拡充、中小企業の育成、企業家の養成、新規投資分野の開発(ゴム、コーヒー、パーム油、米、木材加工、ゴム加工、養殖等)を掲げている。

経済事情

以上の「経済復興計画」の実施による政府財政収支の改善, 対外債務の軽減の見通しをまとめてみると, 下記の通りである(次表参照)。

表 経済復興計画の財政見通し

(単位: 百万ドル)

	1986/87	1987/88	1988/89
歳入	246	275	300
一般歳入	193	215	237
石油価格増等による歳入	53	60	63
歳出	129	135	142
公務員給与	97	90	83
その他歳出	32	45	59
無償援助	28	28	28
対外債務支払い	194	187	119
財政収支ギャップ	-49	-19	+67
財政収支ギャップ	90	113	82
資金調達			
国内資金	40	20	15
国外資金	50	93	67
対外債務軽減見通し	-41	-94	-149

しかしながら、こうした「経済復興計画」の実現に当っては、問題点も多い。歳入の伸びは年率10%以上の増加を見込んでいるが、①政府機関の非効率性が指摘されている現在、これは楽観的過ぎること②歳出面で公務員の定員減と大幅な削減を目指しているが、国内景気の不振のおり、大量の公務員カットは、あらたな社会不安を引き起しかねないこと③累積債務問題の解決の方法が結局新しい援助の導入に依存せざるを得ないことは、対外信用を失いつつある同国にとってさらに援助を要請することは決して容易でないことなどが挙げられる。それゆえ、本計画の修正作業の進捗とあわせ、今後の同国の経済運営はますます前途多難といえよう。

なお、部門別の開発投資をみると、農業分野、運輸通信分野、エネルギー分野に高い優先順位が置かれている。この中で特に農業分野は、ドウ大統領自らが「緑の革命(Green Revolution)」を提唱し、主食の米の自給達成、外貨獲取のためのゴム、ココア、パーム油等の換金作物の増産奨励を打ち出している。

当面の投資計画は表・経済復興投資計画通りである。源資の大部分をアメリカ合衆国合衆国の商品援助(PL 480米)に頼らざるを得ない上に、アメリカ合衆国合衆国は現在援助供与を見直し中にあるため、この投資資金不足は本計画の実施に大きな制約となっている。

経済事情

表 経済復興投資計画

(単位：百万ドル)

	1986/87		1987/88		1988/89		合計	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外
Agriculture	9.6	25.8	3.1	25.1	3.1	25.1	15.8	76.0
Industry	-	1.0	0.2	0.5	0.2	0.5	0.4	2.0
Energy	-	-	1.0	12.0	1.0	12.0	2.0	24.0
Transport & Communication	4.3	19.0	2.8	19.3	9.8	15.4	16.9	53.7
Water & Sewer	-	5.0	0.4	3.6	0.4	3.6	0.8	12.2
Regional & Urban Development	0.5	2.8	0.5	2.8	0.5	2.8	1.5	8.4
Education & Training	1.4	3.1	1.4	9.0	1.4	9.0	4.2	21.1
Health & Social Welfare	0.7	9.3	0.4	9.3	0.3	-	1.4	18.6
Manpower	0.3	2.5	0.6	3.7	0.6	3.7	1.5	9.9
State Enterprise	-	0.5	-	0.5	-	-	-	1.0
小計	16.8	69.0	10.4	85.8	17.3	72.1	44.5	226.9
国際機関	1.1	-	1.1	-	-	-	2.2	-
総計	17.9	69.0	11.5	85.8	17.3	72.1	46.7	226.9

4-4 貿易構造と国際収支

(1) 貿易構造

リベリアの貿易構造は、鉄鉱石、天然ゴム、木材、さらにココア、コーヒー、ダイヤモンド等の一次産品を輸出し、工業製品、消費財、石油、米等を輸入する形態である。

リベリア経済に占める貿易額はきわめて大きく、1984年を例にとると輸出と輸入の対GDP比は、それぞれ55.2%、44.3%に達している。輸出については、鉄鉱石が輸出全体収入の60%以上を占め、リベリア第一の輸出商品である。次いで天然ゴム20.2%、木材5.0%、ココア3.4%、コーヒー3.0%、ダイヤモンド2.4%でこれら6品目で輸出全体の約96%を占めている(表参照)。

表 輸出品の金額と構成

(単位：百万ドル)

	1981 (%)	1982 (%)	1983 (%)	1984 (%)
鉄鉱石	325.4 (61.5)	311.1 (65.2)	267.3 (62.5)	279.0 (61.7)
天然ゴム	86.7 (16.4)	53.4 (11.1)	73.1 (17.1)	91.3 (20.2)
木 材	32.5 (6.1)	29.2 (6.1)	22.2 (5.2)	22.6 (5.0)
ココア	13.8 (2.6)	8.8 (2.0)	11.5 (2.7)	15.3 (3.4)
コーヒー	19.4 (3.7)	22.8 (4.8)	18.2 (4.3)	13.7 (3.0)
ダイヤモンド	23.4 (4.4)	26.3 (5.5)	17.2 (4.0)	10.9 (2.4)
その他	28.0 (5.3)	25.8 (5.3)	18.1 (4.2)	19.3 (4.2)
合 計	529.2 (100.0)	477.4 (100.0)	427.6 (100.0)	452.1 (100.0)

(出所：Economic Survey, MPEA 1985)

次表に主要輸出品の輸出量と金額をしめすが、主要輸出品目である鉄鉱石はシェアでは大半を占めているものの、金額的には西洋諸国の鉄鋼業の不振から急速に減少している。天然ゴムの輸出は、数量的に増大したものの国際価格の下落の影響を受け大幅な変動をしめし、木材は金額的にも単価でも落ち込み低迷を続けている。

表 主要輸出品の数量,金額および単価価格

(単位:百万ドル)

		1981	1982	1983	1984
鉄鋼石	金額	325.4	311.1	267.3	279.0
	数量(百万t)	20.7	16.4	15.7	16.9
	トン当たり(\$)	15.72	18.97	17.03	16.51
天然ゴム	金額	86.7	53.4	73.1	91.3
	数量(百万kg)	76.9	60.1	73.6	87.9
	kg当たり(\$)	1.13	0.89	0.99	1.03
ダイヤモンド	金額	23.4	26.3	17.2	10.9
	数量(千キャラット)	336.0	433.0	330.0	236.7
	キャラット当り(\$)	69.64	60.7	52.1	46.0
木材	金額	32.5	29.2	22.2	22.2
	数量(千m ³)	199.8	190.1	156.7	183.5
	m ³ 当たり(\$)	162.6	153.6	141.7	123.2
コーヒー	金額	19.4	22.8	18.2	13.7
	数量(百万kg)	8.3	10.0	7.4	4.9
	kg当たり(\$)	2.34	2.28	2.46	2.80

(出所: Economic Survey, MPEA 1985)

・ 輸入実績を次表にしめすが, 輸入については, その内訳は消費財, 資本財, 原材料という構成になっている。消費財の中では食料品の割合が高く, 特に国民の主食である米の輸入が特徴的である(自給率75%)。機械類の輸入は一貫して大きなシェアを維持しているものの国内の製造業の不振を反映し, 部品の輸入は著しく減少している。

輸入原材料では, 従来原油の輸入が大きなシェアを占めていたが, リベリア石油精製公社保有の精製プラントが故障したため, 1983年以降現在は原油輸入を中止し精製油の輸入に切り換えられている。しかしながら, 総輸入額に占める精製油(原油)の輸入額はその他の項目に含まれているが, 1982年の27%から1984年の20%弱まで依然高水準にあり原油価格の低落にもかかわらず, 同国の大きな経済負担となっている。

表 輸入実績

(単位：百万ドル)

品 目	1981	1982	1983	1984
消費財	136.1	113.8	127.8	112.0
食料品	80.5	74.4	75.2	60.3
耐久消費財	6.3	5.1	7.2	8.1
半耐久消費財	16.0	9.5	14.2	12.2
非耐久財	27.5	18.0	23.2	22.9
輸送機械	5.8	6.8	8.0	8.5
資本財	89.6	95.6	90.6	75.5
機械類	44.1	46.4	35.6	39.1
輸送機器	23.7	25.0	24.6	17.6
部 品	21.8	24.2	30.4	18.8
原材料	251.7	219.0	193.0	175.7
原 油	129.6	94.1	-	-
建設資材	16.1	16.3	16.1	11.6
その他	106.0	108.6	177.1	164.1
合 計	477.4	428.4	411.6	363.2

(出所：Economic Survey, MPEA 1985)

リベリアの主要貿易相手国をみるとアメリカ合衆国、西ドイツ、その他のEC諸国となっている。輸出相手国としては西ドイツが第1位でこれは鉄鉱石の主な輸出先であるため、アメリカ合衆国がそれに続いている。輸入相手国はアメリカ合衆国が断然トップを占め、西ドイツが次いで主要輸入先となっている。日本は、輸入先としては、第4位にランクされているが、輸出相手国としては、下位に甘んじ、貿易アンバランスが顕著となっている。

経済事情

(2) 国際収支

リベリアの国際収支の動きは、統計資料の問題から正確には捉えることは難しいが、伝統的に輸出が輸入を上回り、貿易収支は、黒字基調を保っている。これに対し、貿易外収支は赤字が恒常的に続き、その結果経常収支は毎年赤字でこれを長期民間資本の導入で何とか賄う傾向が強かった。最近、貿易収支は黒字基調で、国内の景気低迷から輸入が抑えられたため黒字幅が伸びるとともに、貿易外収支も全般に停滞し、経常収支は黒字に転じている(表参照)。

表 貿易収支

(単位：百万ドル)

品 目	1980	1981	1982	1983	1984	1985
輸出(F.O.B.)	600.4	529.2	477.4	427.6	452.1	435.6
輸入(C.I.F.)	533.9	477.4	428.4	411.6	363.2	284.4
貿易収支	66.5	51.8	49.0	16.0	88.9	151.2
経常収支	-104.4	-77.3	-48.6	-91.5	11.0	87.4

(出所：Economic Survey, MPEA 1985)

しかしながら、交易条件をみると輸入価格に対する輸出価格の比率は近年低下傾向にあり、特に輸出価格の中心である一次産品価格の下降状態に対し、工業製品の輸入価格が上昇傾向にあるため、交易条件は徐々に悪化する状況にある(表参照)。

表 貿易指数

(1981年 = 100)

	1981	1982	1983	1984	1985
輸 出	100	108.4	101.3	99.9	99.4
輸 入	100	105.4	100.3	109.7	101.7
交易条件	100	107.8	101.0	91.1	97.7

(出所：Statistical Bulletin of Liberia, MPEA 1987)

さらに、国際収支の悪化傾向の原因として貿易外収支における対外債務への多額の金利支払いと海運収入の横ばい状況がある。対外債務残高は国内の開発予算の源資として年々急増しており、累積債務が深刻化しつつある。そこで国家財政の健全化が図られるまで、今や世銀・アメリカ合衆国は借款の供与を停止している。一方海運収入は政府の重要な国家収入源であったが、政府の1981年の登録料の引き上げにもかかわらず、世界的な海運不況から減少傾向にある。

その結果、中央銀行の外貨準備は減少を続け、リベリア政府発表では、1985年に330万ドル、IMFの資料では152万ドルまで激減してしまっている。

(単位：百万ドル)

品 目	1980	1981	1982	1983	1984	1985
債務支払	-23.9	-20.2	-37.1	-58.6	-77.9	-79.7
海運収支	10.7	20.1	29.6	24.5	23.5	23.5

(出所：Economic Survey, MPEA 1985 Statistical Bulletin of Liberia, MPEA 1987)

5. 我が国との関係

5-1 政治, 外交

そのほとんどが第二次大戦後になって独立を達成しているブラック・アフリカ諸国において、リベリアの独立は1847年と古く、リベリア共和国は独立国としての長い歴史を有している。しかし地理的に遠く、経済的な繋りも薄かった我が国との外交関係が本格化するのは第二次大戦後のことであった。

我が国とリベリアとの間には1936年に通商暫定収決が結ばれたものの、第二次大戦の勃発に際して、リベリアが連合国側に回ったために両国間の国交は中断した。戦後、連合国と我が国の間に1951年対日講和条約が締結されたのに伴い、1952年12月29日、我が国とリベリアとの間に国交が回復された。さらに1962年5月には外交関係が樹立され、在ガーナ大使館が同国を兼轄することとなった。その後、1973年1月我が国はモンロビアに在リベリア大使館を開設している。一方、リベリアは1954年以降、我が国に名誉領事を置いていたが、1969年2月東京に在日大使館を開設した。

5-2 経済, 貿易

対リベリア貿易取引の特徴的な点は、我が国からの船舶の輸出がきわめて大きな比重を占めている点である。これは、リベリアの便宜置籍船制度を利用して我が国の船主の多くが船籍をリベリア国籍に登録していることによる。

1980年の我が国からリベリアに対する輸出総額は14億1550万ドルであった。これは我が国からアフリカ諸国に対する輸出総額の17.7%に相当する。毎年、リベリアに対する輸出総額の97~99%は船舶で占められており、1980年も97.3%が船舶の輸出によるものであった。船舶をのぞいた輸出は小規模なものであり、1980年も3820万ドル程度であった。これはアフリカ諸国への輸出総額の0.58%に相当し、リベリアはアフリカ諸国の中で21番目の輸出相手国の地位を占めるに過ぎない。船舶をのぞいた輸出は1960年代後半から70年代中頃までは大した増加を見せず、1000万ドル台で推移していたが、76年には前年対比78.8%増の3430万ドルへと急増し、その後3500~4200万ドル前後で推移している。船舶以外の主要輸出商品は自動車、農業用機械、建設・鉱山用機械等の一般機械、通信機器等の電気機器、鉄鋼、タイヤ、繊維品等である。

我が国からリベリアに対する輸出は船舶の急速な伸びにより、1970年代に入って急速に増加する。1970年には5億8760万ドルであったものが、76年には28億950万ドルへと約4.8倍の規模へと拡大した。

これは世界的な海運市況の上昇、タンカーの大型化、海運会社が体質改善を図る目的でチャーターバックを行ったこと等を背景としている。しかし、石油危機を契機としてタンカーを中心に船舶は過剰状態となり、また世界的な不況から内外船主からの我が国への造船発注は減退し始める。加えて価格競争力の低下、西欧造船国が政府助成により競争力を強化したこと、韓国、ユーゴスラビア等の造船第三勢力の台頭などの要因により、我が国の造船竣工量が減少する傾向をしめすこととなる。船舶への需要低迷を背景として、我が国船主のリベリアへの船籍登録も停滞し、1977年以降リベリアに対する輸出は急速な落ち込みを見せ始める。このために1976年まではアフリカ諸国への輸出総額の4割以上を占めていたリベリアの比重が78年には26%、79年には17.8%へと低下している。

一方、リベリアからの輸入は、輸出に比べきわめて小規模であった。輸入/輸出比率は、年ごとの変動は大きいものの、1977年までは10%に満たなかった。しかし、1978年のリベリアからの輸入額はそれまでの最高であった71年の7430万ドルをはるかに上回る1億9120万ドルを記録し、79年には4億2490万ドルに達している。80年も前年に比べ減少したものの3億3840万ドルであった。リベリアからの輸入においても、船舶の比重が高い。この船舶の輸入額の変動が毎年大きいためリベリアからの輸入額も年ごとの変動が大きくなっている。船舶以外の輸入品では鉄鉱石、鉄鋼くず、製材用・ベニア板用木材等がある。

リベリアと我が国の貿易収支は、上記のような貿易構造上の特異性により我が国の大幅な出超となっている。船舶の輸出入をのぞいた実質的な貿易収支は、1974年までは入超が続いていたが、75年に770万ドルの出超に転じ、それ以降我が国の黒字が続いている。これはリベリアからの鉄鉱石輸入が減少していることが主因である。

我が国との関係

表 我が国のリベリアとの貿易

(単位：1000ドル,ただし()内は百万円)

商品	年	数量 単位	1986年			1987年				
			数量	金額	構成 比(%)	数量	前年 比(%)	金額	前年 比(%)	構成 比(%)
輸出総計	-	-		461,403 (76,389)	100.0			882,599 (133,577)	191.3 174.9	100.0
[軽工業品]	-	-		2,420	0.5			3,289	135.9	0.4
繊維品	-	-		672	0.1			1,038	154.5	0.1
合成繊維織物	KSM	0		99	0.0	100	0.0	163	164.6	0.0
その他の軽工業品	-	-		1,710	0.4			2,237	130.8	0.3
[重化学工業品]	-	-		448,623	97.2			858,465	191.4	97.3
金属品	-	-		4,544	1.0			5,466	120.3	0.6
鉄鋼	MT	4,039		2,376	0.5	5,929	146.8	3,956	166.5	0.4
亜鉛鉄板	MT	3,094		1,778	0.4	5,203	168.2	3,458	194.5	0.4
機械機器	-	-		443,791	96.2			852,357	192.1	96.6
一般機械	-	-		3,888	0.8			2,449	63.0	0.3
農業用機械	-	-		1,335	0.3			174	13.0	0.0
電気機械	-	-		6,668	1.2			3,951	59.3	0.4
通信機器	-	-		3,840	0.8			1,979	51.5	0.2
輸送機械	-	-		433,141	93.9			845,773	195.3	95.8
自動車 (部品を除く)	NO	967		5,671	1.2	624	64.5	4,754	83.8	0.5
乗用自動車	NO	683		3,683	0.8	387	56.7	2,987	81.1	0.3
トラック	NO	231		1,531	0.3	205	88.7	1,414	92.4	0.2
船舶	GT	779,837		426,680	92.5	1,305,579	167.4	840,100	196.9	95.2
タンカー (鉄鋼製新造船)	GT	148,222		88,982	19.3	582,666	392.8	435,687	489.6	49.4
貨物船および貨客 船(鉄鋼製新造船)	GT	313,485		239,222	51.8	486,182	155.1	348,860	145.8	39.5
中古船および 改造船	GT	317,054		95,270	20.6	236,729	74.7	55,526	58.3	6.3
[再輸出・特殊取扱 品]	-	-		10,302	2.2			20,846	202.3	2.4
輸入総計	-	-		96,571 (15,477)	100.0			18,464 (2,821)	19.1 18.2	100.0
[食料品]	-	-		6	0.0			0	0.0	0.0
[原料品]	-	-		5,176	5.4			2,867	55.4	15.5
鉄鉱石	KMT	224		5,030	5.2	152	67.9	2,820	56.1	15.3
[鉱物性燃料]	-	-		0	0.0			11	-	0.1
[加工製品]	-	-		81,859	84.8			15,520	19.0	84.1
船舶	GT	423,001		81,845	84.8	76,496	18.1	15,493	18.9	83.9
タンカー	GT	359,972		61,794	64.0	76,496	21.3	15,493	25.1	83.9
貨物船	GT	22,967		11,241	11.6	0	0.0	0	0.0	0.0
解体用船舶	GT	35,191		1,512	1.6	0	0.0	0	0.0	0.0

(出所：通商白書,昭和63年版)

5-3 経済・技術協力

(1) ODAの現状

① DAC諸国は、1986年支出純額で6,910万ドルの二国間ODAを供与しており、贈与がこのうちの72.8%を占め、主要援助国はアメリカ合衆国(4,800万ドル、シェア69.5%)および西ドイツ(同15.7%)である。我が国は、720万ドルを供与し第3位の援助国である。

また、国際機関は、1986年支出純額で2,813万ドルのODAを供与しており、貸付けがこのうちの63.2%を占め、主要援助機関は、IDA、EDF、AfDF等である。

② 我が国は、有償資金協力、無償資金協力および技術協力の各形態による援助を実施しているものの、近年は贈与が中心となっている。有償資金協力については、1974年度および78年度に通信および運輸・交通分野に対し供与したが、その後はリベリアの債務状況、経済状態の悪化に伴い債務返済がなされていないことから新規供与は行っておらず、債務繰延べを実施している。

また、無償資金協力については、保健・医療、通信・放送分野、食糧増産援助を中心に実施しており、技術協力については、青年海外協力隊派遣を含む各種形態により協力を実施している。

(2) 我が国のODA実績

(単位：億円)

暦年	贈与			政府貸付	合計
	無償資金協力	技術協力	計		
1983年	4.18 (8.2)	1.41 (0.3)	5.59 (0.6)	0.54 (0.0)	6.13 (0.3)
1984年	1.14 (0.2)	1.34 (0.3)	2.48 (0.2)	1.15 (0.1)	3.63 (0.2)
1985年	0.13 (0.0)	1.42 (0.2)	1.55 (0.1)	- (-)	1.55 (0.1)
1986年	4.30 (0.5)	1.73 (0.3)	6.03 (0.4)	1.17 (0.1)	7.20 (0.2)
1987年	7.18 (0.6)	3.06 (0.3)	10.24 (0.5)	- (-)	10.24 (0.2)

注：()内は、我が国二国間ODA各形態別総計に占める割合。

我が国との関係

(3) 年度別・形態別実績

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1982年度までの累計	59.81億円 電気通信施設拡張 (74年度：18.00) 道路開発計画 (78年度：40.00) 債務繰り延べ (81年度：1.81)	22.47億円 モンロビア病院設立計画 (86) (81年度：10.00) (82年度：8.00) 食糧援助 (81年度：1.98) (82年度：2.49)	13.12億円 研修員受入れ 102人 専門家派遣 19人 調査団派遣 77人 協力隊派遣 27人 機材供与 130.1百万円 開発調査 3件
1983年度	2.84億円 債務繰り延べ (2.84)	3.00億円 医療器材整備計画 (3.00)	1.96億円 研修員受入れ 17人 専門家派遣 1人 調査団派遣 1人 協力隊派遣 9人 機材供与 39.3百万円
1984年度	2.89億円 債務繰り延べ (2.89)	なし	2.60億円 研修員受入れ 15人 専門家派遣 9人 調査団派遣 9人 協力隊派遣 14人 機材供与 34.8百万円
1985年度	2.96億円 債務繰り延べ (2.96)	8.58億円 教育テレビ放送網拡充計画 (6.68) 食糧増産援助 (2.00)	2.65億円 研修員受入れ 13人 調査団派遣 2人 協力隊派遣 32人 機材供与 12.3百万円
1986年度	なし	11.05億円 教育テレビ放送網拡充計画 (8.58) 食糧増産援助 (2.00) リベリア国立博物館に対する視聴覚機材 (0.47)	2.93億円 研修員受入れ 19人 協力隊派遣 23人 機材供与 13.5百万円
1987年度	なし	8.92億円 食糧増産援助 (2.00) 電力供給改善計画 (6.92)	3.82億円 研修員受入れ 22人 専門家派遣 1人 調査団派遣 4人 協力隊派遣 21人 機材供与 10.2百万円
1987年度までの累計	68.50億円	54.02億円	27.09億円 研修員受入れ 188人 専門家派遣 30人 調査団派遣 93人 協力隊派遣 126人 機材供与 240.2百万円 開発調査 3件

注：1. 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日に、無償資金協力および技術協力は予算年度による。

2. 「金額」は、有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

(出所：「我が国の政府開発援助」1988年版、外務省経済協力局編)

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

首都モンロビア市内では、欧米諸国、台湾からの食料品が豊富に出回っているが、輸入品のため価格は割高。

現地のフィッシュマーケットでは、魚、えび、ロブスターが安く購入できる。

市内数カ所にあるスーパーマーケットは、外国人が多く利用しており、品質、衛生面では問題がない。しかし、経済が不安定であるため、時々マーケットから、米、卵、牛乳などが消えることがある。

(2) 主な食料の出回り状況

米はリベリア国内でも作られているが、スーパーマーケットで売られているのはアメリカからの輸入米である。パンは、食パン、フランスパンいずれも容易に購入できる。肉は、ヨーロッパからの輸入であり、品質は良好、牛肉は安価である。アフリカンマーケットでは、現地の肉が購入できるが品質は落ちる。

ロングライフ牛乳、その他の乳製品、ハム・ソーセージは、種類も多く、豊富に出回っている。

野菜の種類は多く、キャベツ、人参、きゅうり、じゃがいも、玉ねぎ、長ねぎ、なす、大根、ピーマン、いんげん、オクラ、トマトなどが入手可能であるが、ほとんどが輸入品であるため、常時店頭に並んでいるとは限らない。チャイニーズファームの直営店では、新鮮なキャベツ、白菜、なす、きゅうりなどが入手できる。

果物は、りんご、ぶどう、オレンジが輸入されているが、時期に応じ、オレンジ、バナナ、パイナップル、マンゴ、パイナップル、グレープフルーツが安価に出回る。

リベリア近海で採れる魚、えび、ロブスターは、フィッシュマーケットで、安価に入手できる。

その他、スーパーマーケットでは、野菜春巻、ハンバーグなどの加工冷凍食品が数多く並んでいる。また、インド人、レバノン人が多く居住しているため、それらの料理の材料も入手可能である。また、調味料、食用油、ワイン、ウイスキー、ミネラルウォーター等も豊富にある。

食生活

(3) 食料の入手

リベリアで入手可能な日本食料品は、醤油だけである。その他の代用品としては、台湾製ゴマ油、竹の子の缶詰、インスタントラーメンが入手可能。アフリカンマーケットでは、小豆、ピーナッツ、さつまいも、かぼちゃなど、スーパーマーケットにない野菜や、現地食の材料が、安価に小売りされている。

主なスーパーマーケット(モンロビア市内)

エイターゼット(A-Z)

アッシ(G-Ashi)

チョイトラム(Coithram)

アビジャジ(Abijaoudi)

その他、チャイニーズファーム直営店、フィッシュマーケットが利用できる。

1-2 調理,食器具等

(1) 調理,食器具等の入手

日本料理用の調理,食器具は入手困難であるが、一般的なものは、現地調達が可能である。包丁,まな板,鍋,フライパン,ボール,ざる,魚焼き用網などの一般調理に必要なものは揃っている。また,皿,コップ,茶碗,箸,フォーク,スプーン等食器類は,ヨーロッパ製,台湾製のものが入手できる。

現地で調達できる電気製品は,冷蔵庫,ミキサー,オーブントースターなどである。

(2) 日本から持参したほうがよい調理,食器具等

和食器類,出刃包丁,蒸し器,竹箸。電気炊飯ジャーは,台湾製があるが,陳腐である。

電圧は,120Vあるいは,220Vで,差し込みプラグは日本と同形。

1-3 外 食

(1) 飲食店

表 飲食店

料理の種類	店 名	住 所
中華料理	中国酒家	Tubuman Boulevard 11 st.
	マンダリン	Broad st.
イタリア料理	ラ・ビラ	Sinkor 14 st.
スペイン料理	エル・メゾン	Carey st.
インド料理	マハラジャ	Center st.
	ウィンビー	Broad st.
レバノン料理	ベイルート・ レストラン	Center st.
ドイツ料理	カナッペ	Sinkor 8 st.

衣 料

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

リベリアの季節は、雨期と乾期に大別され、肌寒く感じられる時期もあるが、年間を通じて日本の夏と同程度である。

衣類は豊富に出回っているが、品質、縫製は良いとはいえない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

下着、靴、パジャマ、帽子、ネクタイ、ワイシャツ、スポーツウェアなど。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

家庭着として、Tシャツ、ジーンズ、カッターシャツ、ワンピースなど。また、子供用衣類、おむつなどのベビー用品は、豊富に出回っているため、わざわざ日本から持参するより、現地調達したほうがよい。

(4) その他留意すべき事項

雨具、雨靴は入手できるが材質が悪いため、持参したほうがよい。時期的に、あるいは場所により肌寒く感じることもあるため、長袖の衣類を少し持参したほうがよい。ヨーロッパでの休暇を予定している人は、そのための衣料を用意したほうがよい。

2-2 礼 装

(1) パーティー

紳士 スーツ

婦人 ドレス

(2) 式典

紳士 スーツ

婦人 ドレス、和服

(3) その他の冠婚葬祭

日本と同じに考えてよい。

(4) その他留意すべき事項

特になし。

2-3 洗濯,仕立て,修繕,保管

(1) 洗 濯

クリーニング店があり,ドライクリーニングも可能。アイロン,電気洗濯機は現地で購入できる。

(2) 仕立て,修繕

仕立て・修繕屋は多いが,縫製は粗末。

(3) 保 管

雨期には,カビが発生しやすいので気をつける。また,ゴキブリ,ネズミにかじられないように注意する。

住 宅

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

住宅事情は、独立家屋、アパートともに物件が少なく、また、入居前に補修の必要な場合が多く、良好とはいえない。治安は、凶悪な犯罪はないが、空巣が多い。家賃は年間1万~2万ドルと高い。

(2) ホテル事情

日本人が安心して、快適に宿泊できるホテルは限られており、市街地から離れているなど、ホテル事情は良くない。

表 日本人がよく利用するホテル

ホテル名	TEL	TELEX	料 金	特別事項
ホテル・アフリカ (Hotel Africa)	224519 223993	44223 Hotafr LI	シングル 115~120ドル ダブル 150~155ドル	長期滞在、赴任当 初の利用可能
ジュコー・パレス・ホテル (Ducor Palace Hotel)	224208 224301	44268 Ducor LI		

注：両ホテルとも10%の税金が加算される。

(3) 住宅の探し方

住宅斡旋業者はあるが、周囲の情報をキャッチして、実際に歩きまわってつけたほうが多く物件をみつけれられる。

(4) 住宅の選定上の留意点

多くの外国人は、モンロビア市内のシンコー地区に住んでおり、防犯の面からもその地区への居住が適当である。

入居前に前居住者が電気、水道料金納入済であることを確認すること。未払いの場合、不当な料金請求を受けたり、供給を止められるなど、トラブルの原因となる。

家主との交渉で家具付きのこともあるが、一般には、家具なしのほうが多い。家具は外国からの輸入品があるが高価である。現地人の作っている物で十分使用できるが、その際、腕の良い職人を紹介してもらうのがよい。

電気製品は、日本製、アメリカ製など、多くの種類が出回っている。

(5) 住宅の契約

契約期間は通常1年で、1年分の家賃を前納する。電気、水道、電話料

金は含まれていない。

家具設備費,補修条件等については,家主と契約書を取り交わす必要がある。

(6) 居住上必要な事項

公共料金の支払い,ゴミ処理,防犯対策等は,各自行わなければならない。

表 公共設備等使用申込み手続き

電力受給の申込み	LEC (Liberia Electricity Corporation) 保障金 150ドル
水道受給の申込み	LWSC (Liberia Water & Sewer Corporation) 保障金 45ドル TEL 221807
電話取付け	LTC (Liberia Telecommunication Corporation) 取付け料金 80ドル TEL 222222
し尿処理	問い合わせ先 - し尿処理場 (Sewer Plant) TEL 261050

下水管の普及率は,モンロビア市内で30%で,残りは自家用ばっ気槽を持って処理している。

(7) その他

下宿,間貸しはない。

医 療

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

任国入国に必要な予防接種は、コレラと黄熱病である。

(2) 赴任前に準備したほうがよい事項

歯の治療, 眼鏡, コンタクトレンズの予備。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

表 日本人が利用できる医療機関

	病院名	住所/TEL.
総合病院	セント・ジョセフ・ カソリック・ホスピタル (St. Joseph Catholic Hospital)	住所 シンコー, モンロビア TEL 261688, 261330
	診療科目 内・外・泌・小児・産婦人 他全般 入院可能, 予約必要なし。フィリ ピン人, スペイン人, リベリア人 医師	
地方の病院	フィービー・ホスピタル (Phebe Hospital)	住所 バンガ
	クーラン・ルスラン・ホスピタル (Curran Luthran Hospital)	住所 ゴーゾー
	ラムコー・ブキャナン・ホスピタル (LAMCO Buchanan Hospital)	住所 ブキャナン
	ラムコー・ヤケパ・ホスピタル (LAMCO Yekepa Hospital)	住所 ヤケパ

(2) 緊急時の対応と措置

救急車, 通信交通網が充実していないため, 各人が対応措置するしかない。

4-3 医薬品等

- (1) 携行することが望ましい医薬品
正露丸, 目薬, 胃腸薬, バッファリン, キンカン, 風邪薬, 抗生物質, 体温計など。
- (2) 任国で調達できる医薬品
ほとんどの薬は入手可能。
- (3) 任国で調達できる衛生用品
生理用品, 包帯, ガーゼ, 脱脂綿, 絆創膏。
- (4) 医薬品を使用する場合の留意事項
医薬品は, すべて欧米諸国, 台湾からの輸入品であるから, 使用法, 使用期限に注意する。
一部医薬分業であるが, 処方箋なしでも購入できる。

4-4 妊娠, 出産, 育児

- (1) 妊娠した場合の対応
任国での分娩は可能。流産への対応も可能。早産児出産への対応も可能, 帝王切開も行える。中絶もできる。しかし, 先進国での対応が無難である。
- (2) 出産後の対応
予防接種はある。出産病院での母子検診も行える。
- (3) 育 児
育児用品の入手は容易。しかし, 乳児用肌着は持参したほうがよい。

4-5 手 術

- (1) 任国での可能な手術
比較的大きな病院では, 虫垂炎, 帝王切開等の小手術が可能である。
- (2) 手術設備の状況
手術可能な病院では, 全麻酔設備等, 日本の中小規模病院程度の設備が整っている。
- (3) その他手術入院時の留意事項
St. Joseph Catholic Hospitalの入院設備や食事は良いが, 他の病院施設は不衛生であり, 食事も悪い。また, 輸血を必要とする手術は, 血液型のチェックのみでAIDS検査等を行っていないため, 避けたほうがよい。

医 療

4-6 任国でよく患る疾病

- (1) 一般の疾病
皮膚病, 消化器, 風邪。
- (2) 風土病, 伝染病
マラリア, アメーバ赤痢, 腸チフス, 結核, 性病, 肝炎など。
- (3) 有害動物, 病害虫
蚊, フヨ, 毒蛇。

4-7 保健衛生

- (1) 飲料水
一般に利用する飲料水は, 市販のミネラルウォーターまたは, 煮沸した水道水。生水の飲用は避けること。
- (2) 濾過器の入手法
イギリス製濾過器は安価で容易に入手可能。
- (3) その他保健衛生上留意すべき事項
特にない。

5. 教 育

5-1 教育事情

- (1) 一般事情
初等教育が6年,中等教育が6年だが,水準は低い。
- (2) 日本人学校
ない。
- (3) 現地校,外国人学校
アメリカンスクール,インド人学校,フレンチスクール。
- (4) 幼稚園
アメリカンスクールに併設。

5-2 入学手続きおよび授業料

詳細未調査。

5-3 教育関係施設

- (1) 図書館
公共の図書館はない。
- (2) スポーツ施設
テニスコート,スイミングプール,ゴルフ場,スカッシュコートなど。

5-4 家庭学習

- (1) 家庭教師
語学教師はいる。
- (2) 通信教育
ない。
- (3) 携行したほうがよい家庭学習教材
日本語書籍,英語専門書。

家庭の使用人

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

使用人は通常、家の内外の仕事をするハウスポーイと、防犯のためのウォッチマンの2人を要する。

仕事ぶりには個人差があり、一度雇用すると解雇が難しいため、雇用人選定は慎重に行わなければならない。

6-2 運転手

(1) 雇 用

雇用方法は知人の紹介が良く、選考方法は面接、実技、身上調査等を行う。契約書作成の必要性がある。

契約事項は賃金、賃金の支払い方法、勤務時間、休日・休暇、ボーナス、昇給、解雇条件、退職金、試用期間など。

(2) 日常管理

出退社の管理、走行の管理、燃料管理、部品管理、洗車の管理、保守点検など。

(3) 教育指導

運転マナー、安全運転、服装、時間厳守。

(4) その他の留意事項

宗教上飲酒しない回教徒が運転手として重宝されている。

6-3 メイド/サーバント

(1) 仕事の人数と種類

一般に、家の内外の仕事は、ハウスポーイを使うことが多いが、子守りとしてメイドを雇用する場合もある。人数は1人~2人で間に合う。

料理人として技量のある人は少なく、料理人を必要とする場合は、ハウスポーイに調理法を教えることが必要となる。

(2) 雇 用

運転手の雇用と同様。住込みか、通いかについては、雇用する側の希望で人材を得ればよい。

(3) 日常管理

公私混同させないように、けじめをつけさせる。

6-4 庭師・ガードマン等の雇用

雇用方法は知人の紹介が良い。ガードマンについては、警備会社からの出向という方法もある。

選考方法は運転手の雇用と同様。契約書は作成の必要性がある。契約事項は運転手の雇用と同様。

交通事情

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

国内航空路線は、国営のリベリア航空は運休中。民間航空としてWESWA航空があるが常時路線が確保されているとは限らない。

国内の移動には、民営のタクシー、乗り合いマイクロバス、小型トラックの荷台を改造したピックアップが利用されている。

モンロビア市内の交通手段としては、相乗りタクシー、マイクロバス、また、数は少ないが大型バスが走っており、区間ごとに均一料金となっている。

道路事情は、モンロビア市内、一部幹線道路のみが舗装してあるだけで、特に雨季の地方の道路状況は最悪となる。

飲酒運転、交通標識無視、割込み運転、スピードの出し過ぎなど、交通マナーは悪い。交通は右側通行である。国際免許証は適用しない。日本の免許証を持っていれば、リベリアでの免許に切り替えできる。免許取得後は、毎年12月に更新しなければならない。

(2) 自家用車を利用する場合

運転上の留意事項としては、モンロビア市内には一方通行が結構あるので、道路事情がわかるまでは運転しないほうがよい。

地方の未舗装道路は、悪路で夜間電燈がないため、地方へ行く際は、現地の慣れた運転手を使い、自分で運転しないほうがよい。

(3) レンタ・カー等を利用する場合

社名	YES Transport Service Inc.	
住所	Camp Jonson Road	
TEL	222970, 221403	
1日の料金	カローラクラス	75ドル
	ジープ	100~150ドル
	マイクロバス	200~250ドル
	ワゴン車	100~150ドル

(4) 道路マップ

モンロビア市内の文具店、本屋で入手できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故の場合の連絡先,方法,留意事項としては,まず,警察署へ届け,ボリスレポートを作成してもらい,保険会社で諸手続きをする。

(2) 救急病院

セント・ジョセフ・カソリック・ホスピタル (St.Joseph Catholic Hospital)

TEL 261688, 261330

JFKメディカルセンター (John F.Kennedy Medical Center)

TEL 261772, 261200

(3) 盗 難

自動車および物品等の盗難時の留意事項としては,交通事故発生時と同様の手順を踏む。警察署,保険会社ともに,手続きに時間がかかり,ひどい時には,全く進行しないこともあるので,何度も足を運ばなければならぬ。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

アメリカ式であるが,モンロビア市内の一部をのぞき,ほとんど整備されていない。

(2) 対処方法

一方通行を誤った時など,すぐに警官がやってきて,法外な罰金を要求するため注意が必要である。

7-4 車の修理

(1) 部 品

メルセデス,ワーゲン,ブジョー,トヨタ,三菱,マツダ,ニッサン,ホンダ等は修理工場で入手可能。ない場合には,ヨーロッパ,近隣諸国から取り寄せる。

(2) 修理工場

メルセデス,ワーゲン,ブジョーの修理工場には,白人の技術者がいる。三菱の車の修理は,ブジョーで可能。他の車については,大きい修理工場であれば,ある程度の修理は可能。

通 信

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

モンロビア市内の外国人用住宅での電話の普及率は、割合良い。しかし度々断線され、不通になり、復旧には時間がかかる。

地方はLTCから直接通話可能であるが、一般家庭の普及率は低く、整備もされていない。

(2) 国内電話

ダイヤル直通で、時間無制限で25セント、しかし、公衆電話は少なく、あってもほとんどが故障している。

(3) 長距離(国際電話)

LTCのオペレーターを通じて(ダイヤル番号110)通話が可能であるが、通話まで長く待たされることが多い。通話料金は、日本まで1分間7.05ドル。夜間から早朝には、オペレーターの不在が多い。リベリアは、グリニッジ標準時と同じ。

8-2 電 信

(1) テレックス

LTCのTelex Departmentで可能。

(2) ファクシミリ

LTCに申込み、各自で回線をひけば可能。

(3) 電 報

LTCから発信可能。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

日本からの郵便物発送の留意事項としては、リベリア・日本間は航空便で10日から2週間、船便で約3カ月を要するが、途中の紛失が時々ある。料金は、日本まで、葉書25セント、封書41セント、航空書簡23セント。受取りは、私信箱を開設し、直接郵便局で受取る。戸別配達はされない。

中央郵便局 (住所 Carey St./TEL 222121)

(2) 課 税

小包は内容により、課税の対象となる。免税特権がある場合は、必要な手続きを取った後、引き取ることができる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

Daily Observer, Mirror, New Liberia, Daily Star 等。一部35セント。年極めで購読可能。宅配サービスもあるが、確実性がない。路上の新聞売りやスーパーマーケットで、簡単に購入できる。

(2) 本邦日刊紙

OCSサービスがある。郵便により送付されるが、1週間から10日の遅延がある。

(3) 欧米紙

Herald Tribune, New York Times, Timesなど。その他、近隣諸国からの新聞、雑誌類が入ってくるが、2~3日の遅延がある。料金もかなり割高である。スーパーマーケットでの購入可能。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営放送	ELBC	AM	6.45MHz
		FM	89.9MHz
ミッション系放送	ELWA		
その他	Radio BAH		

(2) ラジオジャパン

8:00~8:30	21695KHz
16:00~17:00	21700KHz
22:00~23:00	11800KHz

聴取状態良好。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC, VOA

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

国営放送 ELTVのみ。

カラー放送で 18:30~24:00まで。

(2) テレビ受信

PAL-B方式

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画・演劇

(1) 映画館

Relda, Roxyなど数軒ある。アメリカ, ホンコン, インド映画が観賞できる。

(2) 劇場

ない。

10-2 出版, 書籍

(1) 一般事情

特に目立った出版物はなく, ほとんど外国からの輸入出版物である。そのため, 出版, 書籍は高価で, 販売部数も少ない。

日本書の手不可。

(2) 書店

National Book Store (住所 Brood St.)

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

フランス語学校

French Institute

TEL 262084

住所 Payne Ave.

(2) 家庭教師

英語・フランス語学習をしたい場合, 知人の紹介か, 教会で教師を見つけることができる。

10-4 文化活動, 文化施設

(1) 一般事情

国立博物館 (National Museum)

住所 Brood St.

TEL 221066

動物園 (Zoo and Animal Ophanage)

住所 Lakpazee

TEL 261506

(2) 日本・任国友好協会等の有無と活動の内容

なし。

- (3) その他の文化活動, 文化施設
特にない。

10-5 写真, ビデオ

- (1) 写 真
フィルムの種類はコダック, フジ, サクラなどで, 価格は24枚撮りで24~25.5ドル。DPEサービスはある。カメラ用小物の調達が可能。
- (2) ビデオセット
2,000ドル位で市内電気店で調達できる。VHS, β いずれでも可能。また, ビデオクラブがある。日本からのビデオテープ送付の際の通関引取りトラブルは特にない。
- (3) ミュージックテープ
市販されている。2ドル前後で購入が可能。

10-6 音楽鑑賞, 演奏, 民族楽器

- (1) 音楽会, コンサート
エグゼクティブ・バビリオン (Ashman St)で時々行われる他はない。
- (2) コーラス, 演奏グループ
日本人が参加可能なグループはない。
- (3) ピアノ等
購入は不可能。調律師, ピアノ家庭教師もいない。
- (4) レコード
販売店がある。
- (5) 民族楽器
ドラム等。特に学習方法はない。
- (6) その他の楽器
楽器の入手困難。家庭教師なし。

10-7 手芸, 絵画, 美術工芸

- (1) 手 芸
手芸用品の調達は可能。
主な任国, 任地の手芸, 民芸品としては, カントリークロスや仮面がある。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

(2) 絵画, 美術工芸

絵画, 美術工芸品店は, 市内数カ所にあるが規模は小さい。国立博物館内でも入手が可能。

10-8 趣味

(1) 園芸

園芸用品, 種苗は, Sinkor地区にある花屋, または, 市内にある園芸用品店で調達できる。

(2) 釣り

モンロビア, ハーパー, ロバーツポートでカヌーを使った海釣りが可能。サイノリバーでも川釣りは可能であるが, 目的地まで行くのが大変である。カジキマグロ, メバル, アマダイ等が釣れる。釣り道具用品は釣針, 糸は現地で入手できるが, 他は持参したほうがよい。

10-9 娯楽, 遊戯等

(1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

リベリアでは, サッカーが盛んで, どこに行ってもサッカーコートがある。娯楽施設は少なく, ホテル・アフリカ内にカジノがある程度。任国で法律上禁止されている娯楽, ゲームは特にない。

(2) 芸能興行

案内の情報やチケットの購入等は, 下記へ問い合わせるとよい。

Ministry of Information, Capitol Hill

TEL 222120

または, 新聞広告から情報を得る。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

会員制ゴルフ場としては, VOA., Lamco。その他にボンマインのレジャーセンター, ファイヤーストンに随時利用可能な施設がある。

リベリアでは, ゴルフ用品, ウェアー, シューズ等が入手困難なため, 日本から持参したほうがよい。

(2) テニス

ホテル・アフリカ 会員制。会員以外は1人1回5ドル。

Cidarクラブ 会員制。会員以外は1人1回3ドル。

Lamco 会員制。会員以外でも, 会員と同行すると無料。

その他, Catholic Hospital内にあるコートを時間制で無料で使用できる。

(3) スイミング

市内 ホテル・アフリカ, エアポート・ホテル, Cidarクラブにスイミングプールがあり, 白人が利用している。地方のヤケバのLamcoに会員制のスイミングプールがある。リベリアのビーチは, 波が高く海水浴には適さないが, サーフィンを楽しむことができる。

(4) その他のスポーツ, 用具, ウェア

その他のスポーツとして, 乗馬, ウィンドサーフィンがホテル・アフリカでできる。また, 市内に1カ所, スカッシュコートがある。用具, ウェアの調達は困難なため, 持参したほうがよい。

(5) スポーツクラブ等

邦人が加入でき, プレイを楽しめるスポーツクラブは以下の通り。

VOA

ホテル・アフリカ

Lamco

Cidarクラブ

10-11 風俗営業

市内にディスコ, ナイトクラブがある。金銭的トラブルに注意すること。

10-12 子供の遊び

子供の遊び場所としての遊園地, 公園等はない。娯楽用品, 玩具, 乗り物等は, 市内で容易に調達できるが, 絵本の類は入手困難である。就学前の場合, 子供の遊び相手を探すのが難しい。

その他のサービス

11. その他のサービス

11-1 美容院

ホテル・アフリカ, ジュコーパレスホテル内と市内にレバノン人経営の美容院がある。セット, パーマ, シャンプーで80ドル前後と高い。

11-2 理髪店

美容院と同様。カットで20~30ドル。

11-3 日本より持参したほうがよい美容, 理髪用品

ハサミ, ブラシ, レザーカット。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の注意事項

外国人の国内旅行に関する規制はない。しかし、国内数カ所にチェックポイントがあり、検問されるため、常時、自分の身分を証明するIDカード、レジデントパーミットを携帯すること。

むやみやたらに写真を撮ると、お金を要求されたり、いろいろなトラブルの原因となるので注意すること。特に、軍関係の建物、兵隊にはカメラを向けないほうがよい。

特に観光の見どころとなる場所はない。

12-2 主要観光地、保養地ガイド

(1) 主要観光地、保養地

地方名	ホテル名	料金 その他
ハーバー	シー・ビュー・モーテル (Sea View Motel)	付近の海岸で海水浴ができる。 魚貝類が豊富。 1泊：シングル10ドル/ツイン20ドル
ヤケバ	マウンテン・ビュー・ホテル (Mountain View Hotel)	近くのLAMCOにテニスコート、プール、ゴルフ等の娯楽施設がある。 1泊：ツイン25ドル 年中を通じて気候がよい。
ロバーツポート	ロバーツポートホテル	魚貝類が豊富、地形に起伏があり、景色がよい。海水浴が可能。 1泊：ツイン20ドル

注：いずれのホテルも設備はあまり整っていない。

観 光

12-3 旅 行

(1) 自動車

雨季には、道路事情が悪化するので、出かけないほうがよい。また、夜間の運転も避けたほうがよい。ガンタ以遠は未舗装なのでジープの使用がよい。

モンロビア→ハーバー

466マイル

15時間。途中で1泊必要。

モンロビア→ヤケバ

211マイル

4時間30分

モンロビア→ロバーツポート

78マイル

2時間

ガソリンスタンドは主要な所にあり、日曜、祭日も営業している。ガソリン価格は1ガロンで1.50ドル前後。地方に行くと割高となる。

(2) バス

大型バスはモンロビア、ズエーテル間を週2回運行。その他の区間は、マイクロバス、ピックアップの利用となるが、乗りごこちは極めて悪く、故障も多いため、一般邦人には勧められない。

ウォーターサイドに行先別に各ステーションがある。

(3) 鉄道

旅客鉄道はない。

(4) 航空機

国営のリベリア航空は運休中。民間航空会社WESWAはセスナ機の航空網を持っているが、運行は一定していない。

12-4 エージェント

ない。

12-5 ホテル等宿泊施設の手配

直接ホテルで予約する。ホテル・アフリカでは、AMEX, VISAカードの使用が可能。

13. 治安,緊急時の心得

13-1 暴動,クーデター等

(1) 緊急時の連絡

在リベリア日本大使館に電話連絡,あるいは青年海外協力隊の無線網を通じて大使館領事担当へ連絡する。緊急時は,大使館の指示に従い,単独で外出しないこと。

13-2 強盗,盗難

(1) 一般的治安状況

凶悪な犯罪はないが,空巢,ゆすり,たかりは多い。

(2) 防犯対策

ガードマン,犬,銃,鉄ごうし等,泥棒に入られないような防犯設備を施す必要がある。夜間の一人歩きはしないこと。

(3) 被害時の心得

強盗には抵抗しないこと。すぐに警察に連絡すること。

13-3 火災,風水害,地震

(1) 一般的災害発生状況

これまでに,大きな火災,風水害,地震の発生はない。

(2) 防災対策

飲料水,食料品の備蓄。

(3) 被害時の心得

在リベリア日本大使館へ連絡する。

消防署 Fire Brigade
TEL 114

出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

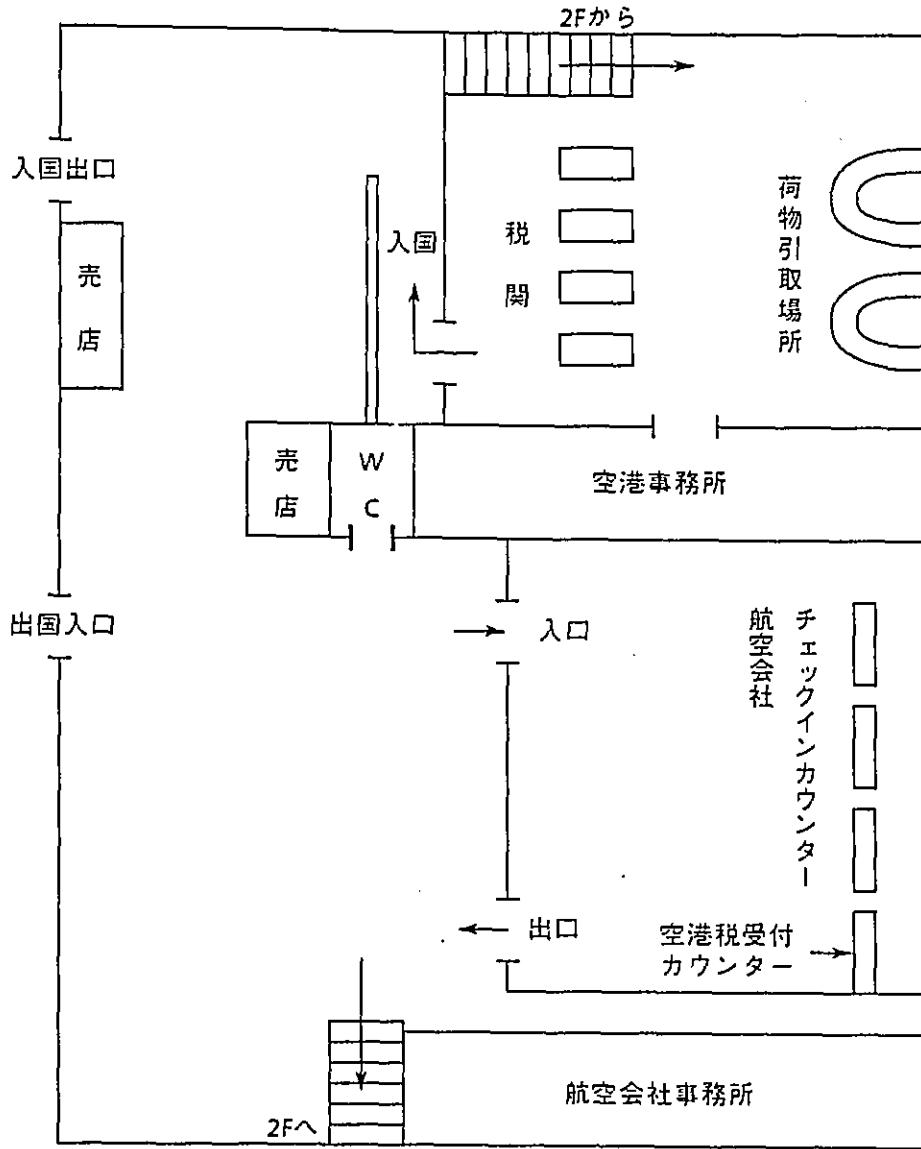
14-1 入国時

- (1) 空港施設概要
略図参照。
- (2) 入国手続き書類
入国カードは、機内、あるいは空港到着後、必要事項を記入し提示する。
イエローカードは、黄熱病は絶対に必要。コレラは必要ないが、入国の際、係員とのトラブルの原因となるので持っていたほうが無難である。
- (3) 入国審査
入国目的、滞在期間、宿泊先が質問される。
- (4) 税関検査
税関では一応荷物を調べるが、特に念入りにということはない。時々物や金を要求したりするが、相手にしないとよい。
- (5) 空港内での注意事項
通関途中で、通関を手伝うとか、荷物を運んでやるとか、多くの現地人が寄ってくるが、相手にせず、正式な白か紺を着たポーターにすること。必要以外の人には荷物を任せたり、パスポートを渡したりしないこと。ポーターには、バッグ1つにつき1ドル程度のチップを渡すとよい。盗難、病気等の事故発生の場合には、空港事務所の係員にその旨連絡し対処する。部外者を仲介に入れてはいけない。
- (6) 空港からのトランスポート
空港から市内まで34マイル、車で約50分かかる。交通手段としては、タクシーをチャーターするか、乗合いにするかである。料金は、チャーターの場合で30ドル前後であるが高くていくるので注意し、空港出発前に交渉して決めること。乗合いの場合はひとり3ドル前後。ホテル・アフリカの送迎バスがあることもある。
- (7) その他の留意点
リベリアでは、USドルがそのまま流通しており、補助貨幣としてリベリアコインがあり、公的にはUSドルと等価である。外貨交換所は、空港内にはない。

出入国手続きおよび帰国手続き

1F

1F

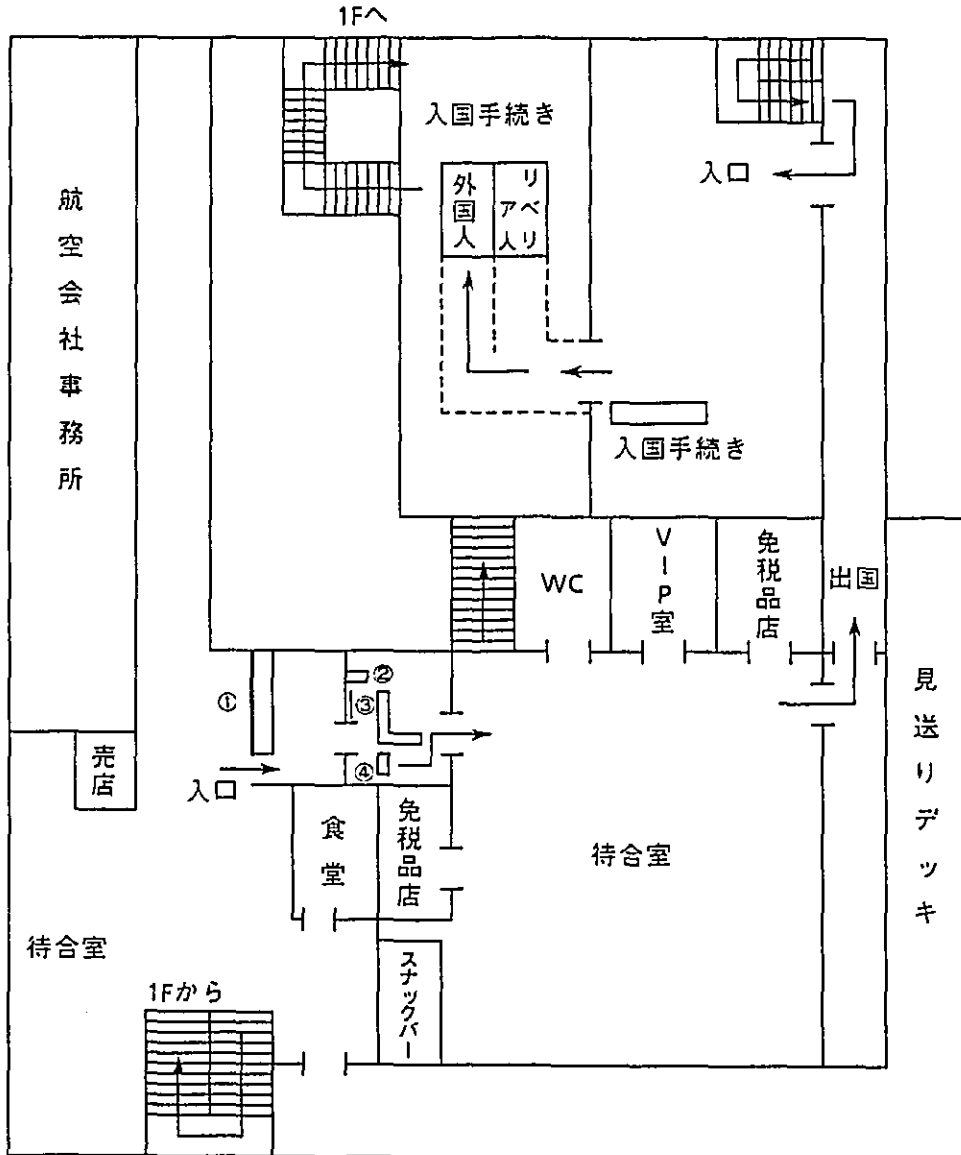


ロバーツフィールド空港略図

出入国手続きおよび帰国手続き

2F

2F



- ① 出国手続きカウンター：イエローカード、ボーディングパス、電気水道料金納入書、出国ビザ、パスポート提示
- ② 持ち出し外貨申告
- ③ 荷物チェック 空港税領収書の提出
- ④ ボディチェック

14-2 出国時

(1) 施設

略図参照。

(2) 出国手続き上の留意点

再入国する場合は、再入国ビザを取得する必要がある。

象牙等野生生物製品はワシントン条約による禁制品なので、リベリアからの持ち出し、および日本への持ち込みには特別の手続きと許可が必要である。リベリアから持ち出す場合には、FDAで書類手続きをし、通産運輸省で輸出許可証を取り、大蔵省の輸出登録書を揃え、さらに出国時に空港税関で審査を受けなければならないが、絶滅に類している野生生物を保護する、というワシントン条約の趣旨と精神に鑑み、これらを日本へのみやげにすることはあまり考えない方が良さだろう。空港税として10ドルが必要。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

出国ビザ、電気、水道料金の納入証明書、イエローカード。

(2) 車の処分

車の買い手は早めに捜しておき、代金の受取り、名義変更の手続きも済ませるのがよい。買い手は知人の紹介などで探す。税金は購入者が支払う。

(3) 家財道具の処分

処分したい旨を周囲に告げると、知人の紹介等で簡単に処分できる。日本への輸送は、アナカン業者がやってくれる。

Stevfor Incorporated

住所 Freeport Monrovia

TEL 224240

(4) 住宅の明け渡し

家主へ通知をし、電気、水道料金を支払う。

(5) 銀行口座の閉鎖

閉鎖手続きをする。リベリアからの外貨持出し規制は、USドルで1000ドルまで認められている。

私財の輸送,引取り,購入

15. 私財の輸送,引取り,購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者(任国)

Stevfor Incorporated 住所 Freeport Monrovia
TEL 224240

免税手続きは,外務省から大蔵省の許可が必要である。約2週間を要する。

(2) 輸入手続き

輸送業者に同じ。

15-2 自動車

(1) 一般状況

日本から輸入することも,リベリアで購入することも可能。しかし,左ハンドル使用,スベアパーツ等を考えるとリベリアでの購入のほうがやや有利。

(2) 輸入手続き

送り状(Bill of handing)を上記引取り業者に渡す。免税の場合は業者が用意した書類に自分でサインし,あとは業者にまかせればよい。日本からの海送は最低2カ月かかり,引取りに約2週間以上必要となる。保険はかけておいたほうがよい。

(3) 任国での購入

ディーラーから購入する方法が一般的。帰国する邦人,外国人から購入することも可能。

(4) 自動車の登録

大蔵省で登録を行う。ナンバープレートの種類は,DPL(外交プレート),BC(政府関係者用プレート),PL(プライベートプレート)が主なものである。

(5) 免許証取得

警察庁に日本の免許証に写真(5×5cm,2枚)を用意して申し込む。警察庁に年1回毎年1月に自分で整備した車を運んで検査を受け,検査済を証明するステッカーをもらうことになっている。

(6) 保 険

民間の保険会社を利用する。保険に加入しない車を外国人が運転することは危険である。

社 交

16. 社 交

16-1 風俗習慣

16-2 パーティーでの留意点

16-3 来客時の留意点

16-4 訪問時の留意点

以上に関しては、上流階級にいくに従い、アメリカナイズされているため、それに従うとよい。

インド人とつきあう時、または、リベリア人で回教徒とつきあう時には、宗教を考慮した料理でもてなすこと。

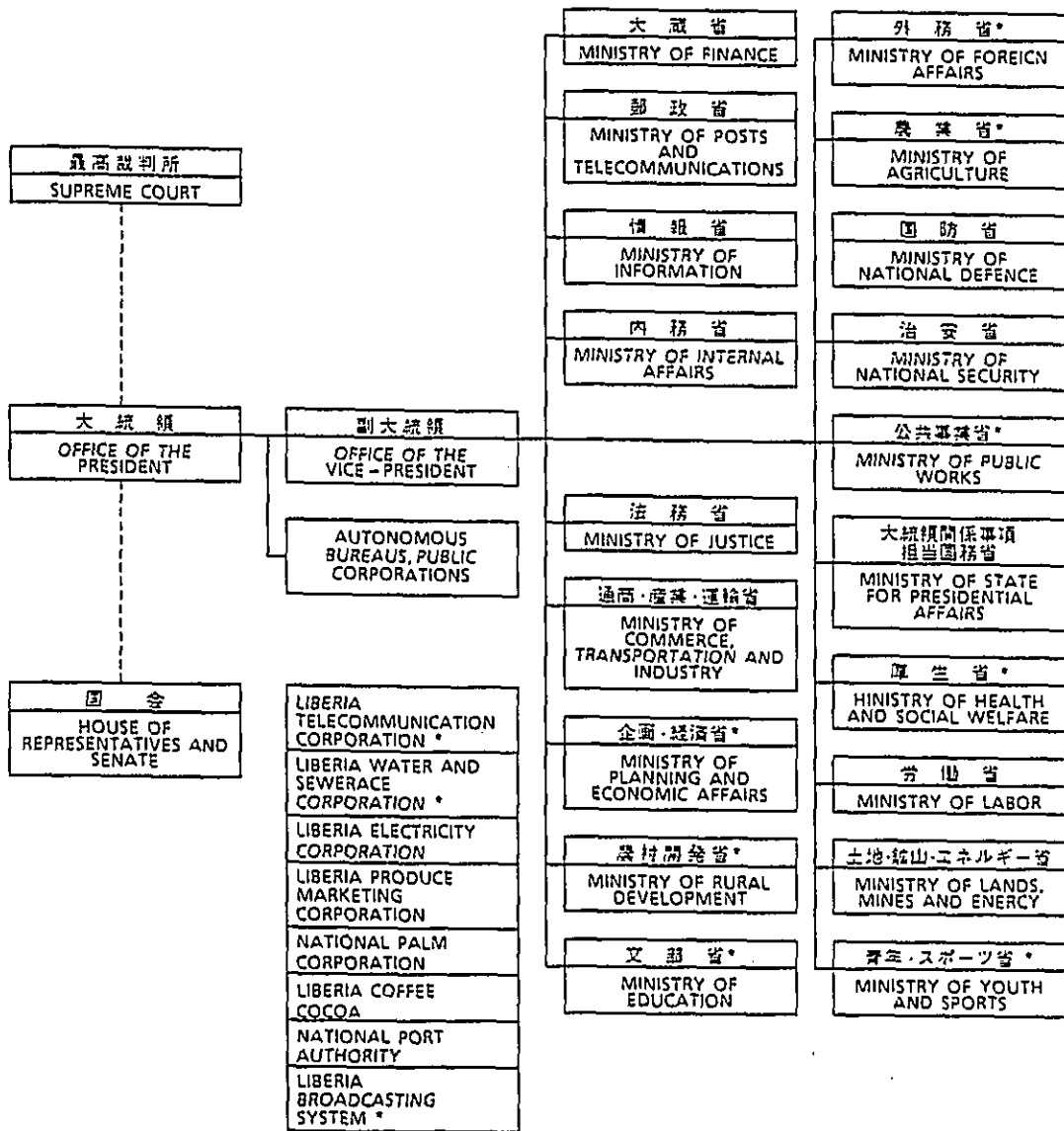
16-5 禁止されている言語

相手を馬鹿にしたような言動は慎しむ。例えば、リベリア人に向けてモンキーとってはいけない。

大統領府、その他の公官庁では、毎朝8時に国旗掲揚、夕方6時に降旗を行う。この時、周辺の歩行者、また大統領府周辺では、車と歩行者は、その場に約1分間停止しなければならない。立ち止まらずに歩いている所を警官や軍人に見つかり、罰金25ドルまたは50ドルを課せられる。

17. 任国公官庁

リベリア国
国家行政組織図
(61年2月現在)



(出所:「開発途上国の行政・省庁組織図」, JICA, 1986年12月)

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

- 在リベリア国日本大使館 (Embassy of Japan)
 - 郵便宛先 P.O.Box 2053 Monrovia
 - 住所 Kapa House, L.B.D.I.Compound, Tubman Boulevard,
Congo Town
 - TEL 262568, 262468
 - TELX TAISIMON 44209
 - 執務時間
 - 木曜をのぞく月曜から金曜
8:30~12:00, 13:30~16:00
 - 木曜
8:30~14:00
- 国際協力事業団青年海外協力隊リベリア調整員
 - 郵便宛先 P.O.Box 398 Monrovia
 - 住所 Cheeseman Av., Sinkor, Airfield Back Rd., Gbagay Town
 - TEL 261264
 - TELEX 44209 TAISIMON LI

19. 地方都市(長期専門家10名前後が滞在している都市)

該当なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務滞業者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. 中国
2. フィリピン
3. ブルネイ
4. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン
ジョクジャカルタ、メダン)
5. シンガポール
6. マレーシア
7. タイ
(バンコク、チェンマイ、コンケン)
8. ビルマ
9. バングラデシュ
10. スリ・ランカ
11. ブータン
12. ネパール
13. パキスタン

— 中近東地域 —

1. サウディ・アラビア
2. 南イエメン
3. シリア
4. ジョルダン
5. エジプト
6. アルジェリア
7. モロッコ

— 大洋州地域 —

1. フィジー
2. バブア・ニューギニア

— アフリカ地域 —

1. マダガスカル
2. モーリシアス
3. エチオピア
4. ケニア
5. タンザニア
(ダルエスサラーム、ザンジバル)
6. ブルンディ
7. ザンビア
8. ナイジェリア
9. ニジェール
10. トーゴ
11. ガーナ
12. 象牙海岸
13. リベリア
14. ガンビア

— 中南米地域 —

1. ドミニカ共和国
2. メキシコ
3. グアテマラ
4. コスタ・リカ
5. パナマ
6. ヴェネズエラ
7. コロンビア
8. ベルー
9. ボリヴィア
(ラ・パス、サンタクルス)
10. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
11. アルゼンティン
12. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ポルトアレグレ、ベレーン)

JICA

